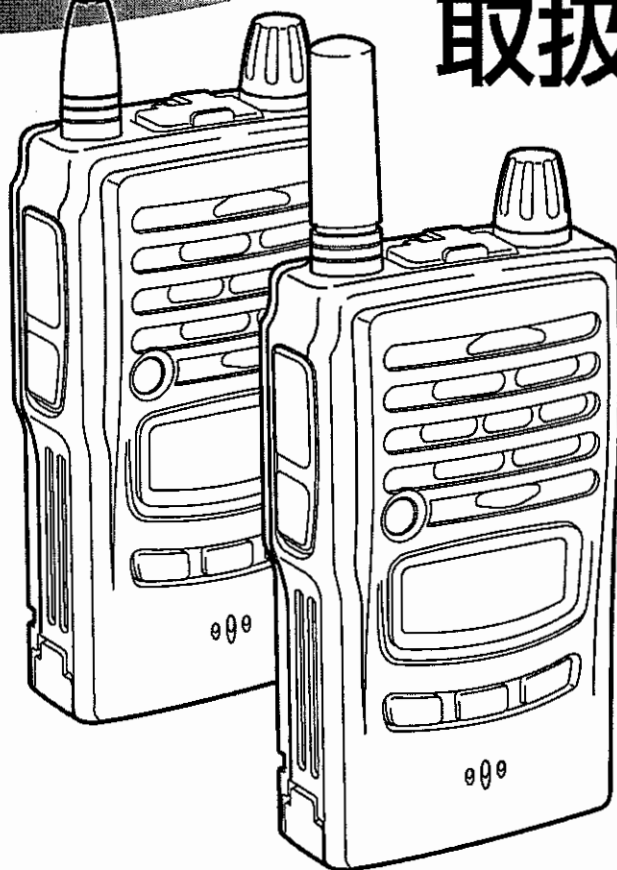
ALINCO

特定小電力ハンディトランシーバー
（総務省技術基準適合品）

DJ-P24

取扱説明書

アルインコのトランシーバーをお買い上げいただきましてありがとうございます。本製品の機能を充分に発揮させ、効果的にご使用いただくため、この取扱説明書をご使用前に最後までお読みください。アフターサービスなどについても記載していますのでこの取扱説明書は大切に保管してください。また、補足シートや正誤表が入っている場合は、取扱説明書と合わせて保管してください。ご使用中の不明な点や不具合が生じたとき、お役に立ちます。本製品は免許・資格不要の特定小電力無線電話として、各種通信にお使いいただけます。

アルインコ株式会社

製品を安全にご使用いただくため、「安全上のご注意」をご使用の前にお読みください。

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損失を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表示	表示の意味
危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

図記号	表示の意味
	△記号は、注意（危険・警告含む）を促す内容があることを告げるものです。 図の中には具体的な注意内容が描かれています。
	○記号は、行為の禁止であることを告げるものです。 図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。
	●記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容（左図の場合はACアダプターをコンセントから抜け）が描かれています。

本製品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電などの外部要因にて通信などの機会を失ったために生じた損害などの純粋経済損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

⚠警告

■使用環境・条件

自動車などの運転中に使用しないでください。交通事故の原因となります。
運転者が使用するときは車を安全な場所に止めてからご使用ください。携帯型無線機を運転者が走行中に使用すると道路交通法違反で罰せられます。

電子機器（特に医療機器）の近くでは使用しないでください。電波障害により機器の故障・誤動作の原因となります。

内部から漏れた液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、中継局周辺、病院内では絶対に使用しないでください（電源も入れないでください）。運行の安全や無線局の運用、放送の受信に支障をきたしたり、医療機器が故障・誤動作する原因となります。

この製品を使用できるのは、日本国内のみです。国外では使用できません。

この製品を人命救助などの目的で使用して、万一、故障・誤動作などが原因で人命が失われることがあっても、製造元および販売元はその責任を負うものではありません。

この製品どうし、または他の無線機とともに至近距離で複数台使用しないでください。お互いの影響により故障・誤動作・不具合の原因となります。

この製品を何らかのシステムや電子機器の一部として組み込んで使用した場合、いかなる誤動作・不具合が生じても製造元および販売元はその責任を負うものではありません。

指定以外のオプションや他社のアクセサリー製品を接続しないでください。故障の原因となります。

■トランシーバー本体の取り扱いについて

イヤホンを使用する場合、あらかじめ音量を下げてください。聴力障害の原因になることがあります。

このトランシーバーは調整済みです。特定小電力トランシーバーをユーザーが改造、変更することは法律で禁止されています。

布や布団で覆ったりしないでください。熱がこもり、ケースが変形したり、火災の原因となります。直射日光を避けて風通しの良い状態でご使用ください。

水をかけたり、水が入ったりしないよう、またぬらさないようにご注意ください。火災・感電・故障の原因となります。

水などでぬれやすい場所（風呂場など）では使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

近くに小さな金属物や水などの入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。

■充電器の取り扱いについて

指定以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

充電器のACプラグのコードをタコ足配線しないでください。加熱・発火の原因となります。

ぬれた手で充電器のACアダプターに触れたり、抜き差ししないでください。感電の原因となります。

充電器のACアダプターを、ACコンセントに確実に差し込んでください。ACアダプターの刃に金具などが触れると、火災・感電・故障の原因となります。

充電器のACアダプターの刃に、ほこりが付着したまま使用しないでください。ショートや加熱により火災・感電・故障の原因となります。

■安定化電源の使用について

指定以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

安定化電源の電源プラグと他の製品の電源プラグをタコ足配線しないでください。

ぬれた手で安定化電源の電源プラグに触れたり、抜き差ししないでください。感電の原因となります。

安定化電源の電源プラグをACコンセントに確実に差し込んでください。電源プラグの刃に金属などが触れると、火災・感電・故障の原因となります。

DCケーブルを加工したり、ヒューズホルダーを取り除いて使用することは、絶対にしないでください。火災・感電・故障の原因となります。

■シガーライターケーブルの使用について

ぬれた手でシガーライターケーブルに触れないでください。感電の原因となります。

弊社指定のシガーライターケーブルをお使いください。指定以外のものを使うと、火災、感電、故障の原因となります。

■異常時の処置について

以下の場合は、すぐ本体の電源をOFFにして、電池を取り外し、充電器をご使用の場合は、ACアダプターをACコンセントから抜いてください。異常な状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。修理はお買い上げの販売店、または当社サービスセンターにご連絡ください。お客様による修理は、違法ですから、絶対にお止めください。

■異常な音がしたり、煙が出たり、変な臭いがするとき
■落としたり、ケースを破損したりしたとき
■内部に水や異物が入ったとき
■ACアダプターのコードが傷んだとき（芯線の露出や断線など）

雷が鳴り出したら、安全のため本体の電源をOFFにし、充電器をご使用の場合は、ACアダプターをACコンセントから抜いて、ご使用をお控えください。

■保守・点検

本体や充電器のケースは、開けないでください。けが・感電・故障の原因となります。内部の点検・修理は、お買い上げの販売店または当社サービスセンターにご依頼ください。

⚠注意

■使用環境・条件

テレビやラジオの近くで使用しないでください。電波障害を与えたり、受けたりすることがあります。

湿度の高い場所、ほこりの多い場所、風通しの悪い場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

ぐらついた台の上や傾いた所、振動の多い場所には置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

直射日光があたる場所や車のヒーターの吹き出し口など、異常に温度が高くなる場所には置かないでください。内部の温度が上がり、ケースや部品が変形・変色したり、火災の原因となることがあります。

調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

■トランシーバー本体の取り扱いについて

アンテナを誤って目などにささないようにしてください。

イヤホン/マイクロホン端子にはオプションのイヤホン/マイクロホン以外は接続しないでください。故障の原因となることがあります。

長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず本体の電源をOFFにして、電池を取り外し、充電器をご使用の場合はACアダプターをACコンセントから抜いてください。

アンテナを持って本体を振り回したり、投げたりしないでください。けがや故障、破損の原因になります。

ゴムカバーやツマミを無理に引き抜いたりしないでください。故障の原因となります。

■充電器の取り扱いについて

充電器のACアダプターを抜くときは、コードを引っ張らないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。必ずACアダプターを持って抜いてください。

充電器のACアダプターを熱器具に近づけないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

■保守・点検

お手入れの際は、安全のため必ず本体の電源をOFFにして、電池を取り外し、充電器をご使用の場合は、ACアダプターをACコンセントから抜いてください。

汚れた場合は柔らかいきれいな布で乾拭きしてください。
ベンジン、シンナー、アルコール、洗剤などを使うと外装や文字が変質する恐れがあります。

■外部電源使用時の注意

本機に外部電源を接続する場合には、必ずオプションのACアダプター（EDC-122）を使用し、本体側面にあるDC電源ジャックに直接接続してください。

車のシガーソケットから電源を取る場合には、オプションのシガーDC/DCコンバーター（EDH-33）をご使用ください。

外部電源ケーブルの抜き差しは、必ず本体の電源をOFFにしてからおこなってください。

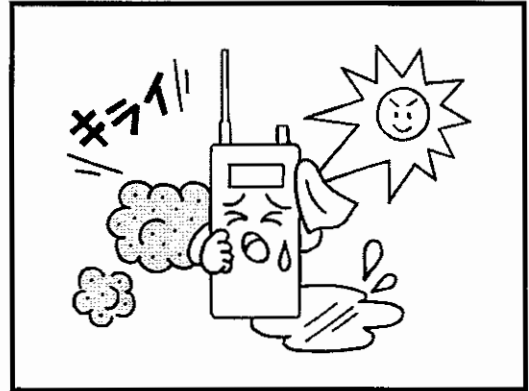
■市販の単三形充電池について

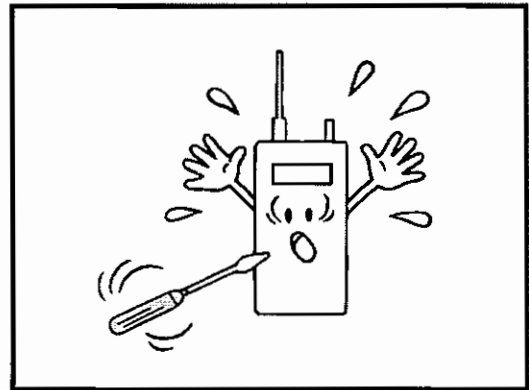
市販の単三形充電池は、機構的・電気的にお使いになれないものがあります。誤って使用すると電池が液漏れしたり、発熱・破裂などを起こす危険がありますので、市販の充電池をご使用になっての不具合、損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

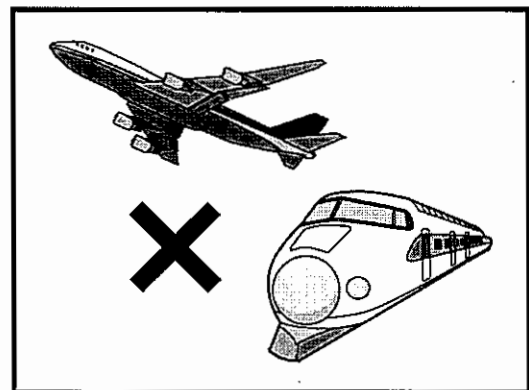
◆◆◆ 目　次 ◆◆◆

◆◆◆ 使用前のご注意 ◆◆◆

■ご使用環境

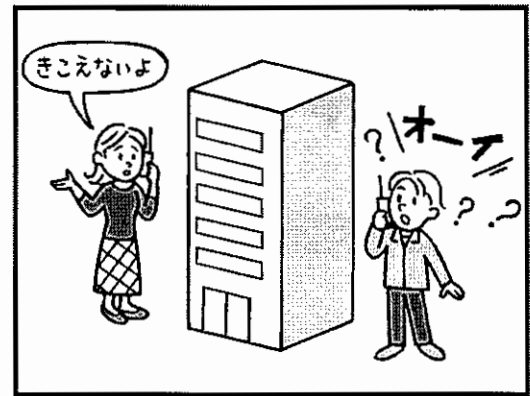
高温、多湿、直射日光の当たるところ、粉じんの多い場所は避けてお使いください。

■分解しないで

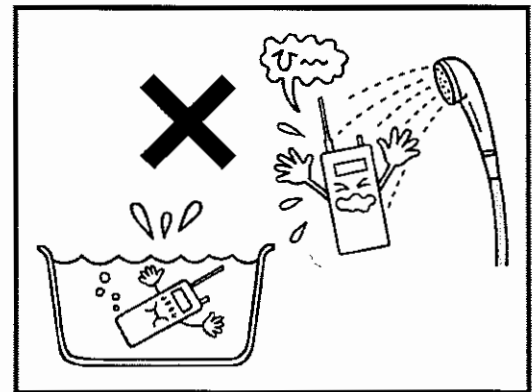
特定小電力トランシーバーの改造、変更は法律で禁止されています。分解したり内部を開けることは絶対にしないでください。

■ご使用禁止場所

本機は総務省技術基準適合品ですが、使用場所によっては思わぬ電波障害を引き起こすことがあります。次のような場所では使用しないでください。
（航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、中継局周辺、病院内など）

海外では、法律や周波数の割り当てが異なるため使用できません。

This product is permitted for use in Japan only.

■障害物

本機に採用されている電波は直進性が高いため、間にビルや橋脚、または山や丘陵等の障害物があると通信できる距離が短くなります。

■水につけないで

JIS保護等級7（防浸形）の防水性能がありますが、ゴムキャップや電池カバーをきちんと閉じていないと防水性能を保証できません。また完全防水構造ではありませんので水没、流水での洗浄などは絶対におやめください。濡れたあとは乾いた布で手早く拭き取り、電池を抜いて内部を良く乾燥させてください。
なお、防水に使われているゴムキャップなどは経年劣化が生じ、防水性が失われる場合があります。弊社では防水性についても製品と同じ保証期間とさせていただきますのでご了承ください。
※イヤホンマイクやヘッドセットを接続している時は、防水にはなりません。

■通信距離（ロングアンテナタイプ交互通話時）

通信できる距離は周囲の状況によって大きく異なります。
（ショートアンテナタイプは約3割短くなります。）

・海上、山頂など条件のよいところ：2Kmまたはそれ以上
・河原など障害物のない平地：500m〜1Km程度
・見通しのよい道、郊外の住宅地：500m程度
・市街地のような障害物の多いところ：200m程度

■バッテリーセーブについて

電池の消耗を防ぐ機能です。受信待ち受け状態で約5秒間キー操作がないとこの機能が動作します。信号を受信するか、キー操作がおこなわれるとバッテリーセーブは解除されます。バッテリーセーブ動作時に信号を受信すると、通話の始めが途切れる場合がありますが、異常ではありません。

■第三者による傍受

電波を使用している関係上、無線機間の通話は第三者による傍受を完全に阻止することはできません。
そのため機密を要する重要な通話に使用することはお勧めできません。

◆◆◆ 機能と特長 ◆◆◆

- 交互通話用20CH、中継通信用27CH（計47CH）を搭載
- ビジネスユースに耐える防水＆頑丈ボディ［JIS保護等級7（防浸形）相当］
- 単三乾電池２本仕様のコンパクトボディ
- 大きなスピーカー音量
- 12個のメモリーチャンネルを搭載
- オプションのLi-ion充電池、Ni-MH充電池に対応
- 本体に２タイプの充電回路を内蔵
- 用途に応じてロング(Lタイプ)／ショート(Sタイプ)の２種類のアンテナを用意
- 音声通話の明瞭度を上げるコンパンダー機能を搭載
- 中継器を遠隔設定するためのリモコンモードを搭載（DJ-P101R、DJ-P111Rに対応）

1 お使いになる前に

本機をお使いになる前にお読みください。

1

・・・・・・・・ 付属品と取り付け方 ・・・・・・・・

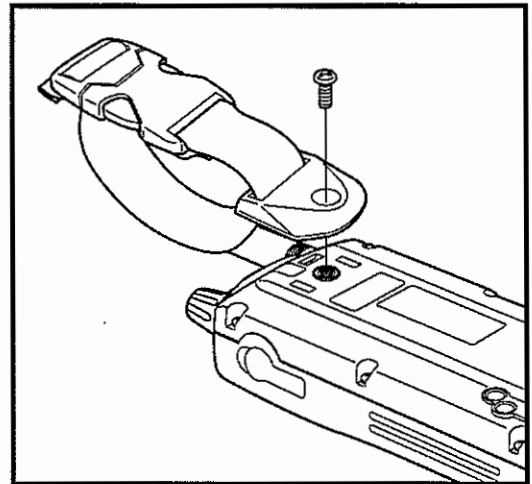
開梱しましたら、付属品を確認してください。

□ベルトクリップ（ビス１本）　□取扱説明書（本書）
□ハンドストラップ　□保証書

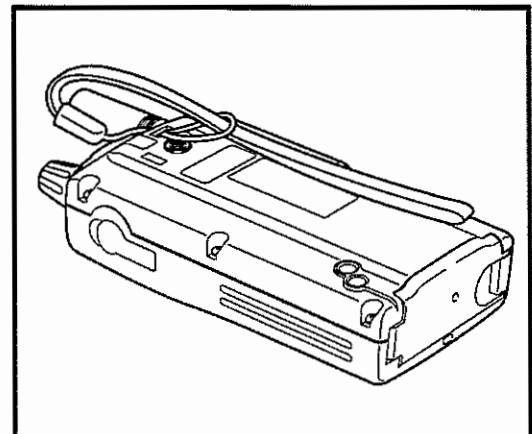
保証書に購入の日付が記載されていないときは、レシートを保証書と一緒に保管してください。ご購入日が証明できる書類が無いと保証サービスは無効となりますのでご注意ください。

■ベルトクリップの取り付け

ベルトクリップを付属のビスで本機の背面に取り付けます。
確実に取りつけたことを確認してください。

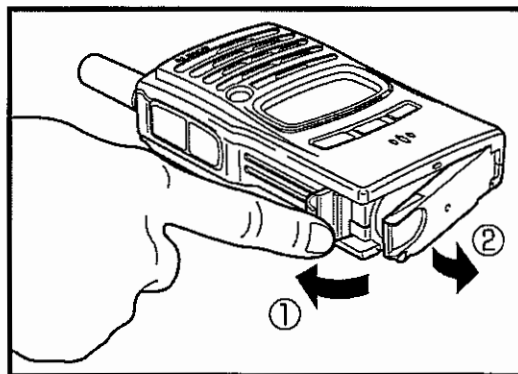
・バンド部分は、長さ調節機能付きで、最大80mmの幅のベルトに対応します。
・クリップは差し込み式で、片手で簡単に脱着することができます。
・ベルトクリップは消耗品で、スペアを部品として販売しています。本体をお買い求めの販売店にご相談ください。

■ストラップの取り付け

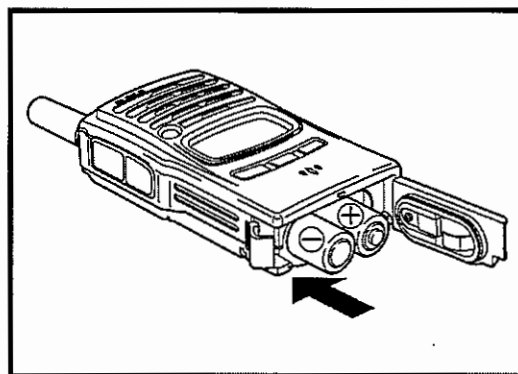
本機背面上部にあるストラップ用の通し穴に取り付けます。

ベルトクリップとハンドストラップの両方を取り付ける場合には、先にハンドストラップを取り付けてからベルトクリップを取り付けてください。

・・・・・・・・・乾電池の入れ方・・・・・・・・・

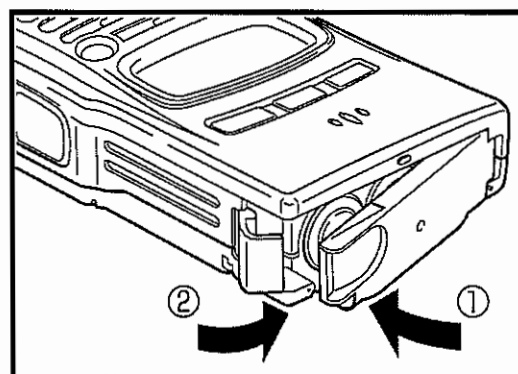
乾電池を次のように装着します。乾電池の代わりに、オプションの充電池、またはバッテリーパックを装着することもできます。

❶カバーを開ける

①ロックを外します。
②カバーを開けます。

❷電池を入れる

市販の単三形乾電池2本を、ケース内側の「+」、「−」の表示にしたがってセットします。

・+/−の向きが違わないように注意してください。
・電池は同じ種類の新しいものを使用してください。アルカリやオキシライドなど、高性能の乾電池の使用をおすすめします。
・単三形乾電池及びEBP-57N、EBP-60でご使用ください。指定以外の充電式電池は使用しないでください。
・長期間使用しない場合は電池を取り外してください。
・電池の交換は、外部電源を外し、本機の電源をOFFにしてからおこなってください。
・カバーを長期間閉めたままにすると、カバーと本体の間に細かいホコリが溜まって、カバーの開閉がしにくくなります。時々、乾いた布などでカバーのゴムパッキンに溜まったホコリを拭き取ってください。

❸カバーを閉める

①カバーを閉めます。
②カバーを押さえながら、ロックをかけます。
きちんと閉まっていることを確認してください。

●オプション（別売品）

オプションの充電池、バッテリーパック、および関連するアクセサリーは次のとおりです。P.67の「オプション一覧」も参照してください。

ニッケル水素充電池	：EBP-57N（1.2V-1800mAh）
リチウムイオンバッテリーパック	：EBP-60（3.7V-1200mAh）
ACアダプター	：EDC-122
充電スタンド	：EDC-131
充電スタンド/ACアダプターセット	：EDC-131A
EBP-60用連結充電スタンド	：EDC-155R
EDC-155R連結充電用ACアダプター	：EDC-156
ツイン急速充電器セット	：EDC-167A
ツイン連結充電スタンド	：EDC-167R
EDC-167R用ACアダプター	：EDC-162

注意 **オプションの充電池、バッテリーパック使用上の注意**

- オプションの充電池、バッテリーパックは出荷時には充電されておりません。お買い上げ後に充電してからご使用ください。
- 充電は0℃～40℃の温度範囲内でおこなってください。
- バッテリーパックの改造、分解や火中、水中への投入は危険ですからしないでください。
- バッテリーパックの端子は絶対にショートさせないでください。機器が破損したり、バッテリーの発熱による火傷の恐れがあります。
- 必要以上の長時間の充電（過充電）は避けてください。バッテリーパックの性能を低下させる恐れがあります。
- バッテリーパックの保存は、−20℃～+45℃の範囲で湿度が低く乾燥した場所を選んでください。それ以外の温度や極端に湿度の高い所では、バッテリーの漏液や、金属部分のサビの原因になりますので避けてください。
- バッテリーパックは、通常の使用で約500回の充電が可能ですが、所定の時間充電しても使用時間が著しく短い場合は寿命がつきたものと思われます。新しいものにお取替えください。
- ご使用済みのバッテリーパックは、環境保護のため、燃えないゴミといっしょに捨てずに、電池回収協力店へご持参ください。

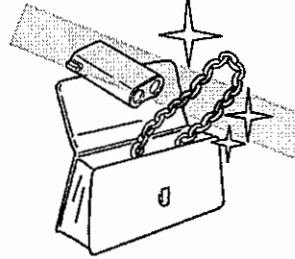
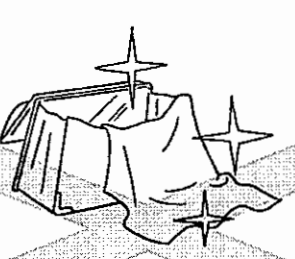
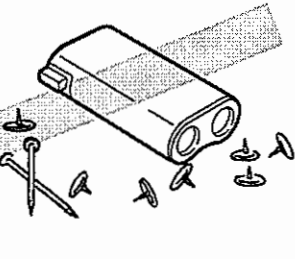
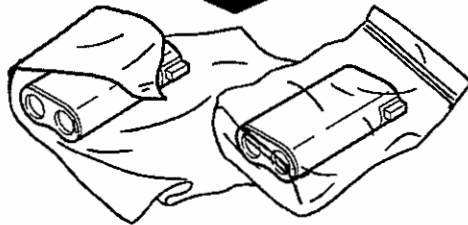
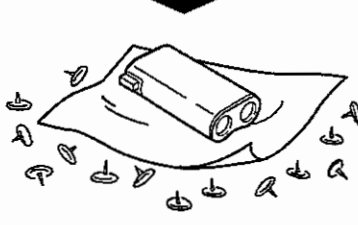
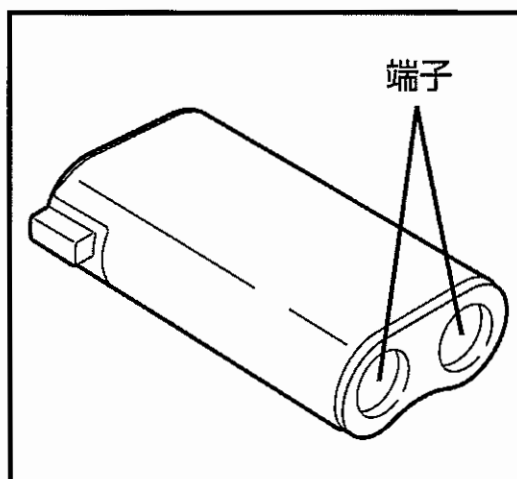
注意 **電池消耗時の動作について**

電池が消耗した状態で使用しているときに、下記の様な動作をすることがありますが、故障ではありません。

■スピーカーから大きな音が鳴ったときにディスプレイ表示が消える。

■減電池警告が点灯していないのにディスプレイ表示が消える。

ある程度電池が消耗しているのに、まだ減電池警告が点灯していない状態で、大きな音が鳴ると電池に負荷がかかり、ディスプレイ表示が消えることがあります。
このような場合は、新しい電池に交換してください。
また、音量を下げるとしばらくお使いいただけることがあります。
「減電池警告が点灯したあとにディスプレイ表示が消える」場合は、電池が完全に消耗していますので新しい電池に交換してください。

■バッテリーパックのショート防止のご注意

バッテリーパックを持ち運ぶときには、端子がショートしないように注意してください。
大電流が流れて火傷や火事を起こす危険があります。

■バッテリーパックの保管と携帯について

バッテリ−パックを保管、携帯するときは、以下のことに注意してください。

金属物と一緒にしてカバンなどに入れないでください。

金属メッキしている布に包んだり、内側が金属加工のカバンなどに直接入れたりしないでください。

釘や画鋲などの金属類に端子を触れさせたり、電気を通す物がある場所に置かないでください。

カバンなどに入れるときは、電気を通さない布や袋で包んでください。

電気を通さない物などを敷いてから、置いてください。

1

■充電についてのお願い

弊社の充電器は、対応する弊社製品専用です。市販の充電池は容量や構造の違いから、充電をおこなうと故障や事故の原因となるおそれがあります。絶対に充電しないでください。
充電器にトランシーバーを挿入してもうまく充電しない時は充電端子の汚れを乾いた布で拭き取ってください。

■オプションの充電池、およびバッテリーパックの充電方法

本機には、ニッケル水素充電池用とリチウムイオンバッテリーパック用の２つの充電回路が内蔵されています。

ニッケル水素充電池（EBP-57N）：
本機にはニッケル水素充電池用のトリクル充電回路が内蔵されていますが、微小電流による充電回路であるため満充電には長時間を要します。あくまでも補充電程度とお考えください。充電時間は約１５時間です。(外部より電源を供給している間は充電を継続します。)

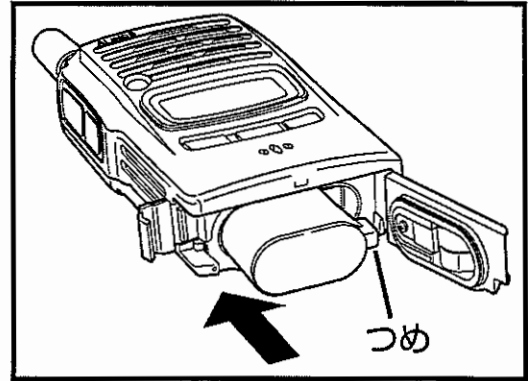
セットモードの「Ni-MH電池充電機能」をONに設定してください。（P.55）

リチウムイオンバッテリーパック（EBP-60）：
本機には、リチウムイオンバッテリーパック用の急速充電回路が内蔵されています。本機の電源のON/OFFに関係なく充電が開始され、満充電になると自動的に終了します。充電時間は約３時間です。

単三形乾電池装着時には絶対に充電しないでください。液漏れや発熱、破裂を起こし、事故や故障の原因となります。

ニッケル水素充電池（EBP-57N）を長期間使用しない場合は、常温付近で保存し、６ヶ月に１回は満充電をおこなってください。

❶本機にニッケル水素充電池または、リチウムイオンバッテリーパックを装着する

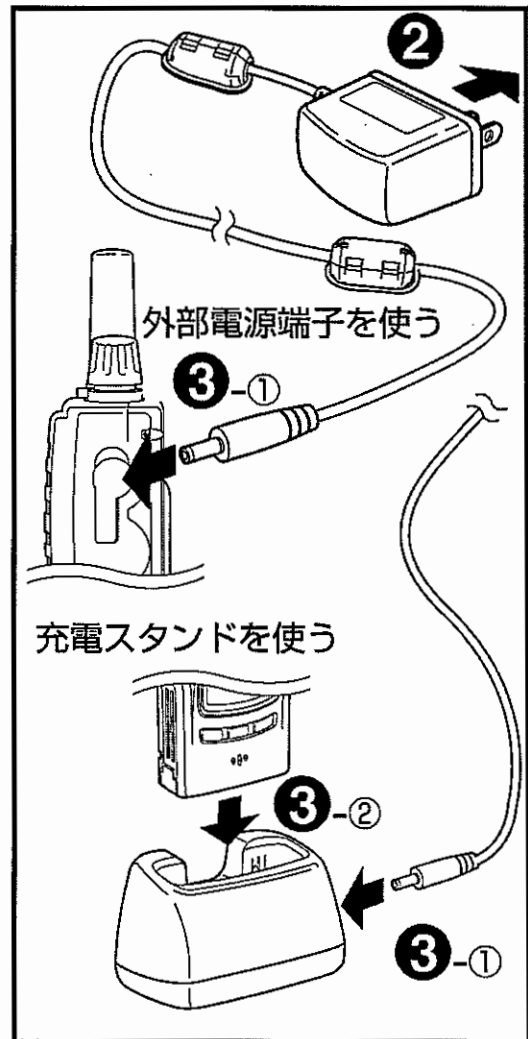
装着方法はP.13を参照してください。
バッテリーパックは、つめの位置を確認して、端子が奥になるように挿入してください。

❷ACアダプターを家庭用電源AC100Vコンセントへ接続する

❸ACアダプターのプラグを本機の外部電源端子または、充電スタンドに接続する

●外部電源端子を使う

①本機の外部電源端子にACアダプターのプラグを接続します。
→リチウムイオンバッテリーパック装着時は、自動的に充電が開始されます。

●充電スタンドを使う

①充電スタンドにACアダプターのプラグを接続します。
②本機を充電スタンドに装着します。
→リチウムイオンバッテリーパック装着時は、自動的に充電が開始されます。

❹ニッケル水素充電池を充電する場合のみ、Ni-MH電池充電機能（P.55）の設定に従い、充電機能をONにする

電源OFFの状態で充電すると「CHArGE」と表示され、▭が点滅します。

・・・・・・・ 各部の名前とはたらき ・・・・・・・

本機の各部の名前とそのはたらきを説明します。

1

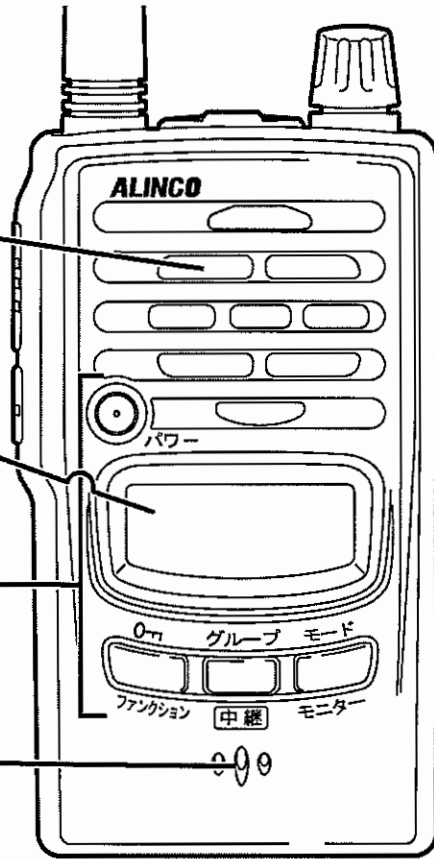
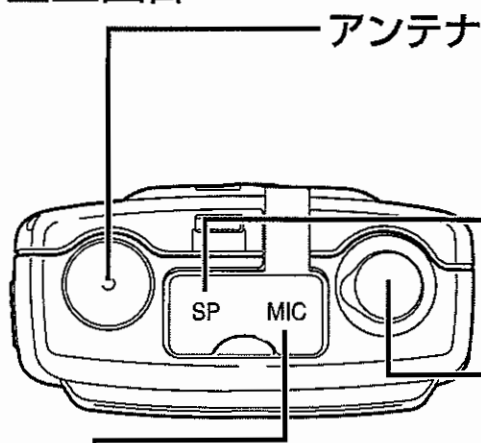
■前面部

スピーカー
薄型スピーカーが内蔵されています。

ディスプレイ
チャンネルや音量、各種設定内容を表示します。(P.21)

キーパッド
電源のON/OFFやモードの切り替えなど、各種設定に使用します。

マイク
マイクと口元は約5センチ離してください。

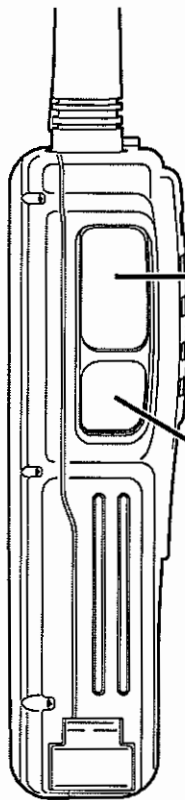
■上面部

アンテナ

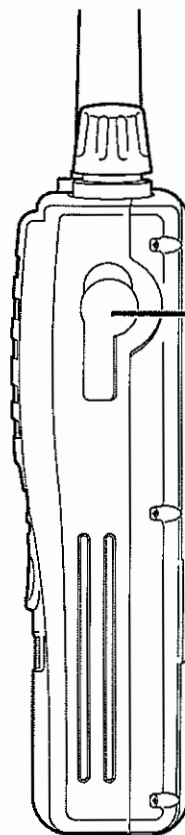
> 注意 アンテナは外れないようになっています。アンテナを回したり、引き抜いたりしないでください。

イヤホン端子
イヤホンや外部スピーカーを接続する端子です。

ダイヤル、[チャンネル(ボリューム、グループ、セット)]キー
ダイヤルを回してチャンネルを合わせます。ダイヤルを押すと音量、グループ番号の設定、F 点灯状態ではセットモードの項目選択ができます。

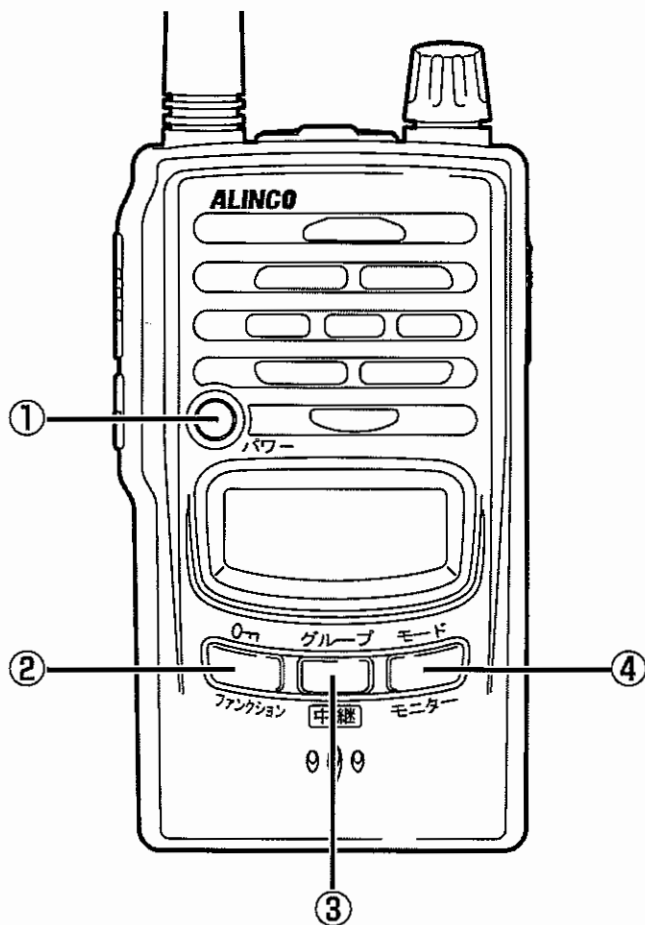
マイク端子
外部マイクを接続する端子です。

■側面部

[PTT] キー
押すと送信します。離すと受信待ち受け状態に戻ります。
各種設定を完了する際にも使用します。

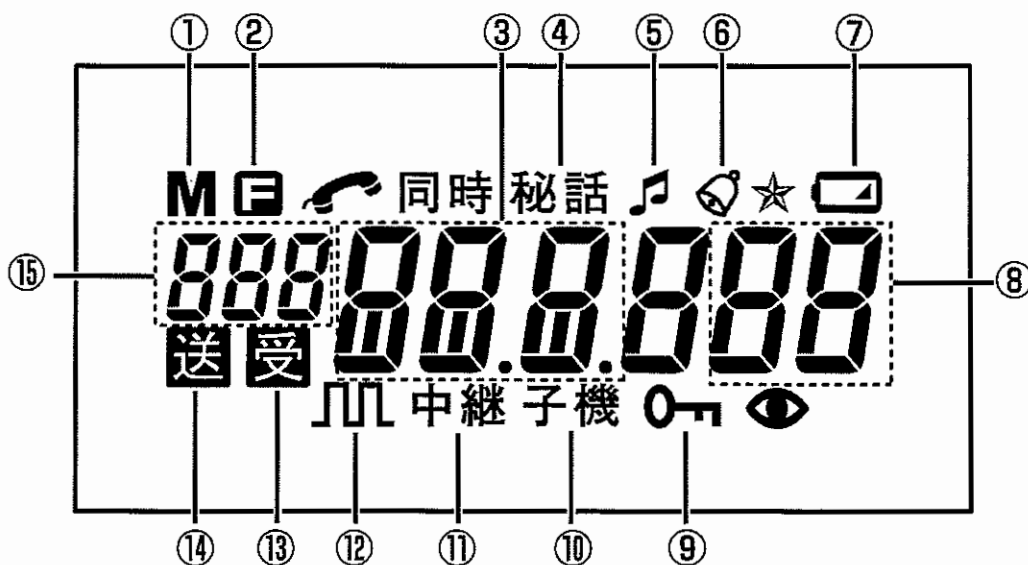
[A/B] キー
F 点灯状態では周波数帯（A/B）が切り替わります。(P.32)

DC-IN
外部電源接続端子です。
オプションのACアダプター（EDC-122）やシガーライターケーブル（EDH-33）を接続します。
オプションのリチウムイオンバッテリーパックやニッケル水素充電池を装着し充電できます。

外部電源のプラグの抜き差しは、本機の電源をOFFにしてからおこなってください。

1

■キー配置

	キー名称	機　能
①	[パワー] キー	約２秒間押して電源をON/OFFします。
②	[ファンクション (O⊸)]キー	各種設定の開始に使用します。 約２秒間押し続けるとキーロックができます。
③	[中継(グループ)]キー、 [メモリー]キー	中継通信時（P.31）に使用します。 F点灯状態（＊1）では、グループトーク機能（P.38）に使用します。 メモリーモードの呼び出し、書き込み(P.36)にも使用します。
④	[モニター(モード)]キー、 [スキャン]キー	相手の音声が途切れるときに使用します。 F点灯状態ではモードの切り替え(P.28)に使用します。 約２秒間押すとスキャンを開始します。

＊1：F点灯状態とは、[ファンクション]キーを押してディスプレイにFを点灯させた状態です。

■ディスプレイ

	説　明
①	メモリーモード時に点灯します。(P.36)
②	[ファンクション]キーを押すと点灯します。
③	チャンネル番号を表示します。(P.22)
④	秘話機能設定時に点灯します。(P.46)
⑤	コンパンダー機能設定時に点灯します。(P.45)
⑥	ベル機能設定時に点灯します。(P.52)
⑦	電池が消耗すると点灯します。
⑧	グループ番号を表示します。(P.38)
⑨	キーロック中に点灯します。(P.40)
⑩	中継通信モード時に点灯します。(P.31)
⑪	中継通信モード時に点灯します。(P.31)
⑫	リモコンモード時に点滅します。(P.58)
⑬	受信中に点灯します。
⑭	送信中に点灯します。
⑮	モード番号、周波数帯、メモリー番号を表示します。

※番号表記のないものは、本機では使用しません。

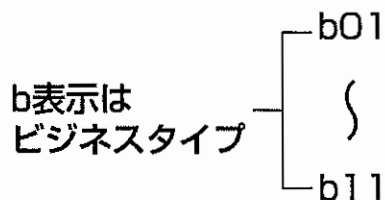
1

■チャンネル表示について

●交互通信時

レジャー、ビジネス両方の20チャンネルを搭載しています。

L表示は
レジャータイプ ― L01 〜 L09

L表示のチャンネルでは、従来のレジャータイプ（9チャンネル機）と通信できます。

b表示のチャンネルでは、従来のビジネスタイプ（11チャンネル機）と通信できます。

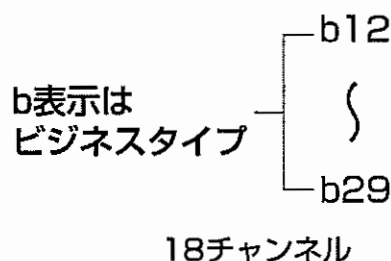
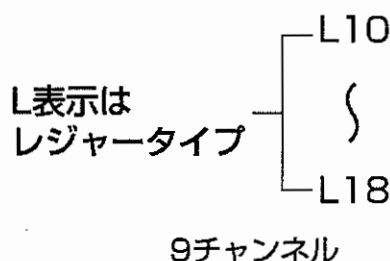
●中継通信時

レジャー、ビジネス両方の27チャンネルを搭載しています。

L表示は
レジャータイプ ― L10 〜 L18

9チャンネル

b表示は
ビジネスタイプ ― b12 〜 b29

18チャンネル

・・・・・・・・・・・・・・ 基本操作 ・・・・・・・・・・・・・・

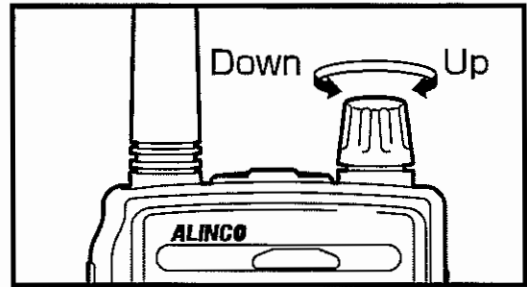
本機を使用する上で基本となる操作を説明します。

■電源を入れる。

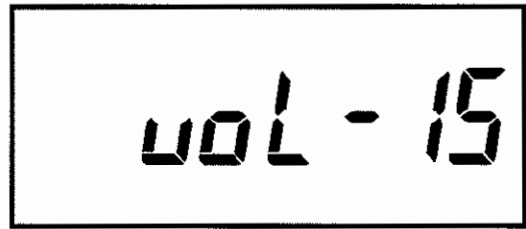
[パワー]キーを約２秒間押します。
電源を切るときも同じ操作をします。

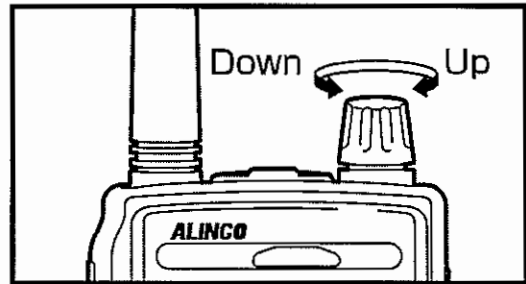
■チャンネルを設定する

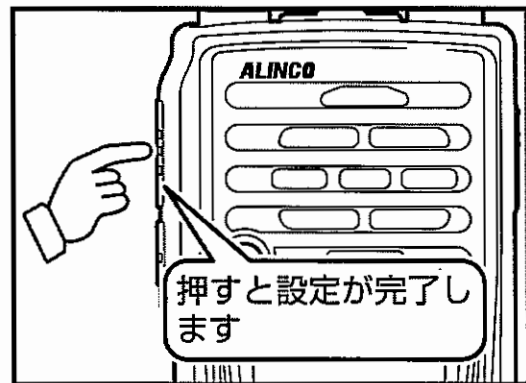
ダイヤルを回して相手機と同じチャンネルに合わせます。L（レジャー）、b（ビジネス）の表示に注意して合わせてください。

1

■音量を調整する

❶ダイヤルを押す

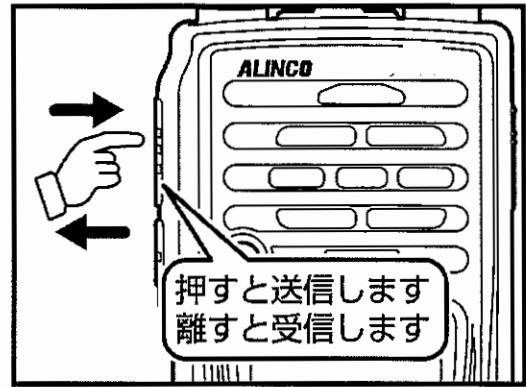
→ディスプレイに音量レベル「voL-15」が表示されます。初期状態では「15」に設定されています。

❷ダイヤルを回して音量レベルを調整する

→音量レベルの表示中にダイヤルを回すと音量が増減できます。音量調整は0〜30までの31段階です。

❸希望の音量レベルを選択したら[PTT]キーを押し設定を完了する

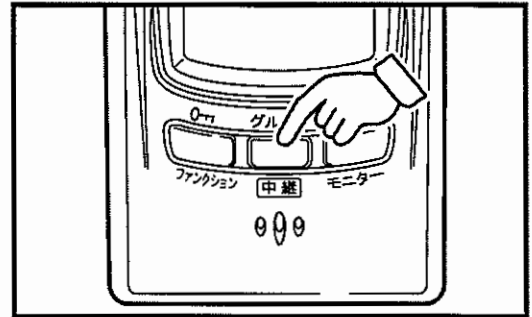
各キーの無操作状態が約5秒続いても自動的に設定を完了します。
→通常の受信待ち受け状態に戻ります。

セットモードのCH/VOLリバース機能（P.47）で、チャンネル設定と音量調整の手順を逆にすることができます。

1

■送信する

[PTT]キーを押すと送信し、離すと受信待ち受け状態に戻ります。
[PTT]キーは、各種設定を完了する際にも使用します。

■グループ番号を合わせる（グループトーク機能を設定する）

同じグループの人とだけ通話したいときは、グループトーク機能を使用します。
グループトークについては、P.38を参照してください。

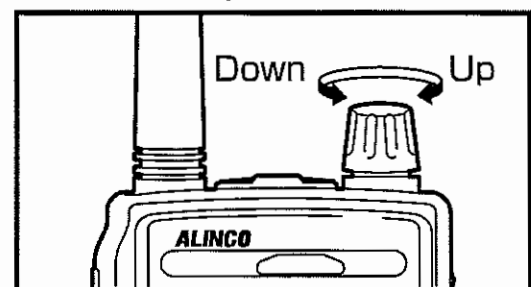
❶[ファンクション]キーを押す

→Fが点灯します。

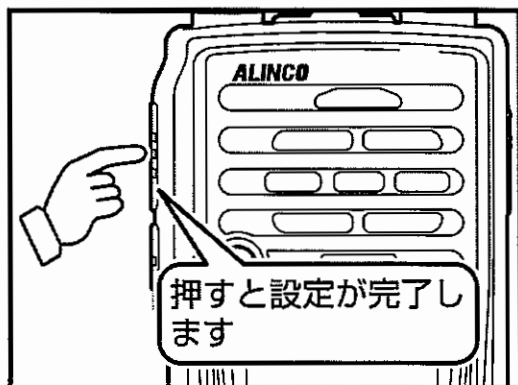
❷F点灯中に[グループ]キーを押す

→グループ番号が点灯します。

❸ダイヤルを２回押す

→グループ番号が点滅して、グループ番号を変更することができます。

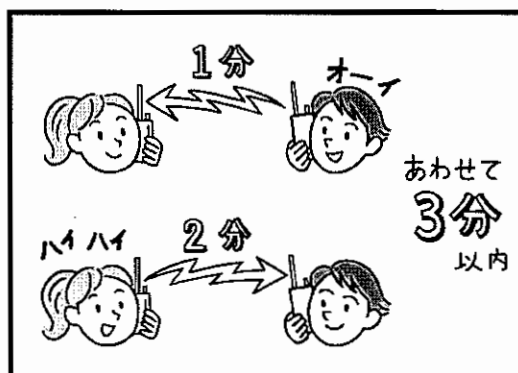
❹ダイヤルを回しグループ番号を選択する

❺[PTT]キーを押し設定を完了する

→グループ番号が点滅から点灯に変わります。

1

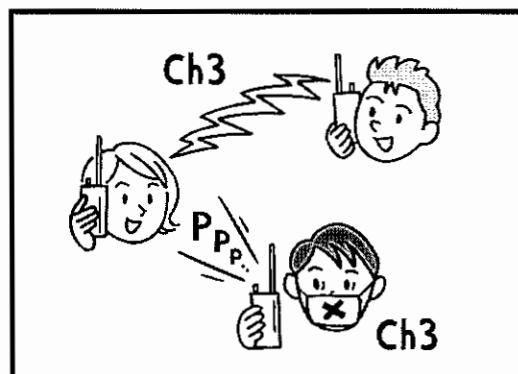
・・・特定小電力の通信制限について・・・

特定小電力トランシーバーの通信に関する制限事項を説明します。

■3分制限（3分以上は連続で送信できません）

送信、受信合わせて3分以内です。
10秒前に警告音が鳴ります。
通信時間が合計3分になると自動的に送信は停止します。

・3分の通信時間制限により、自動的に通信が止まった後は、約2秒たたないと次の送信はできません。
・中継通信用のビジネスチャンネルで送信出力を「Lo」にした場合、3分制限は解除され連続送信が可能になります。

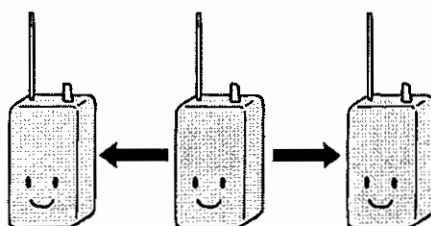
■キャリアセンス（受信中は送信できません）

一定の強さの信号を受信しているときは[PTT]キーを押しても送信出来ません。
受信中に[PTT]キーを押すとアラーム音が鳴り、送信できないことを知らせます。

ビープ音量を0に設定しているとき、アラーム音は鳴りません。（P.51）

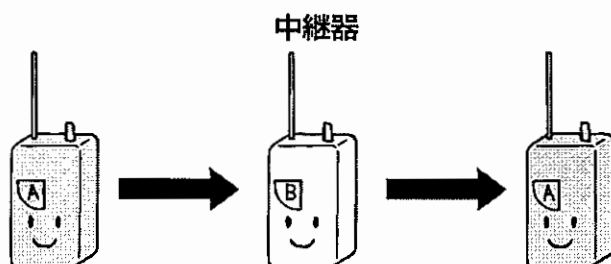
3種類の通信モード

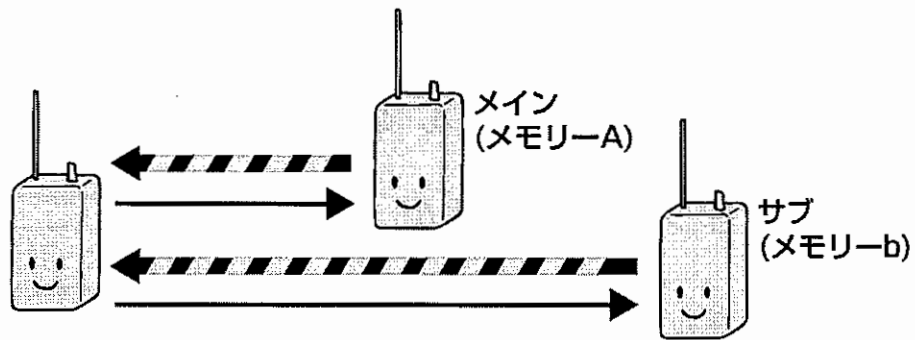
DJ-P24で使用できる3種類の通信モードの概要と操作方法を紹介します。

・・・・・・・・・・ 各モードの概要 ・・・・・・・・・・

ここでは3種類の通信モードの概要を説明します。。

●交互通話（単信）モード（P.29）

最も基本的な交互通話（単信）モードです。工場出荷状態で電源を入れると、このモードになります。送信時に[PTT]キーを押して通話します。周波数構成が同じであれば、他の特定小電力トランシーバーとも通信できます。
使用チャンネル：L1〜9、b1〜11

●中継通信（半複信）モード（P.31）

半複信方式の中継器にアクセスできるモードです。中継器を使用することによって、直接では電波が届かない相手と通信することができます。周波数構成が同じであれば、他の中継器対応タイプの特定小電力トランシーバーとも中継器を介して通信できます。
弊社製の交互通話用中継器が別途必要です。
使用チャンネル：L10〜18、b12〜29

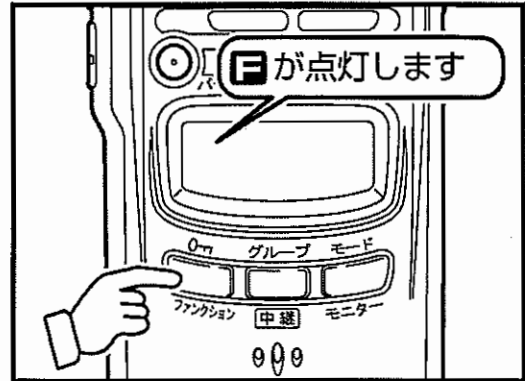
●デュアルオペレーションモード（P.33）

メイン/サブの2つのチャンネルを交互に受信し、そのどちらとも通信することができるモードです。
使用チャンネル：L1～9、b1～11/L10～18、b12～29

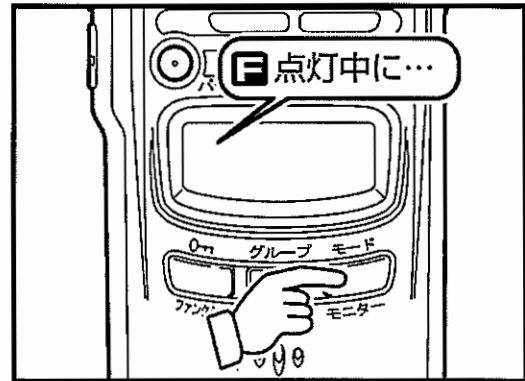
・・・・・・・ モードの切り替え方法 ・・・・・・・

工場出荷（初期）状態で電源を入れると、交互通話モードになります。
ここではモードの切り替え方法について説明します。

❶[ファンクション]キーを押す

→Fが点灯します。

2

❷ F点灯中に[モード]キーを押す

→モード番号が点滅します。

❸ダイヤルを回しモードを選択する

使用する通信モードに合わせます。
→ダイヤルを回すごとに約一秒間、以下のようにモードが文字で表示されます。
・デュアルオペレーションモード「dUAL」
・交互通話モード「SimpLE」
（または、中継通信モード「rEPEAt」）
→その後、モード番号とチャンネルが表示されます。

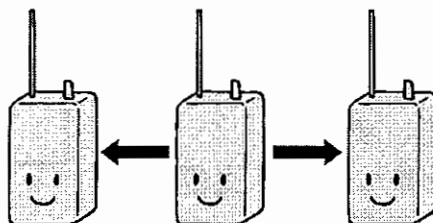
❹[PTT]キーを押して設定を完了する

各キーの無操作状態が約５秒続いても自動的に設定を完了します。

・・・・・・・・ 各モードの操作方法 ・・・・・・・・

モード別に操作方法を説明します。

交互通話（単信）モード

最も基本的な交互通話（単信）モードです。

❶電源を入れる

[パワー]キーを約2秒押します。(P.22)

❷チャンネルを合わせる

ダイヤルを回してチャンネルを合わせます。

❸音量を調整する

ダイヤルを押し、音量レベル表示中にダイヤルを回します。音量の調整はP.23を参照してください。

❹受信/送信する

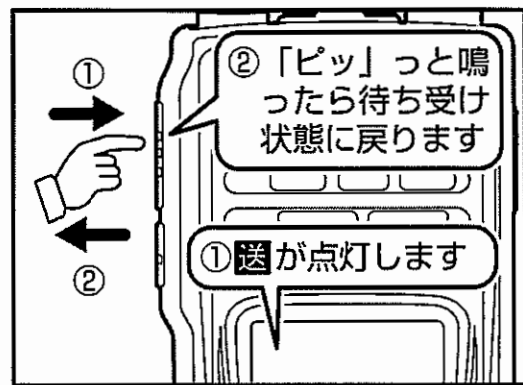
●受信する

→信号を受信するとスピーカーから相手の声が聞こえます。ディスプレイの受が点灯します。

メモ 相手の声が途切れる場合、[モニター]キーを押してください。聞きやすくなることがあります。[モニター]キーを押すと受が点灯します。もう一度押すと消灯します。(「モニター機能」下記参照)

2

●送信する

①信号を受信していないことを確認してから[PTT]キーを押します。[PTT]キーを押したままマイクに向かって話します。
→ディスプレイの送が点灯します。
②[PTT]キーを離します。
→「ピッ」と音が鳴った後、受信待ち受け状態に戻ります。

メモ
・マイクと口元は約5センチ離してください。
・初期状態では、選択したモードによっては動作しないものがあります。この取扱説明書をよくお読みになり、本製品を使用してください。

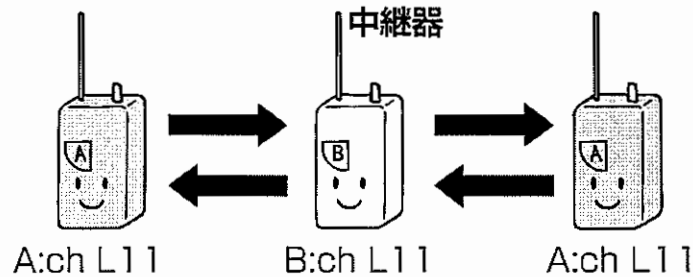
■コールトーン機能

送信中に[ファンクション]キー、[グループ]キー、[モニター]キーのいずれかを押すと、呼び出し音が鳴り相手を呼び出すことができます。それぞれのボタンで呼び出し音は異なります。

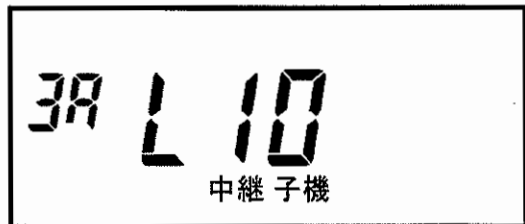
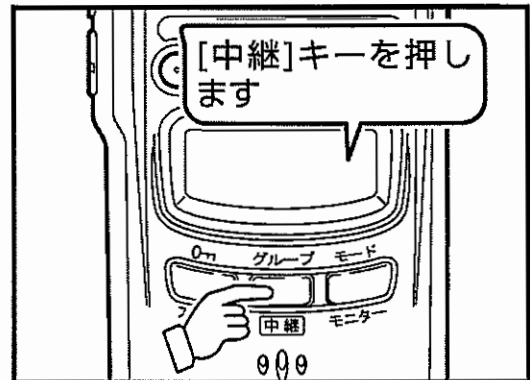
■モニター機能

受信中に相手の声が途切れて聞きづらいときに、[モニター]キーを押してスケルチを一時的に解除することができます。もう一度押すとスケルチが有効になります。(スケルチとは受信時に信号がないときの「ザー」という雑音を消す機能です。P.49を参照してください。)

中継通信（半複信）モード

直接の通信では電波が届かない場所にいる相手と、中継器を介して通信するモードです。中継器として、弊社製DJ-P10R、DJ-P11R、DJ-P101R、DJ-P111R、DJ-R20D、DJ-R100Dなどが必要です。

❶[中継]キーを押す

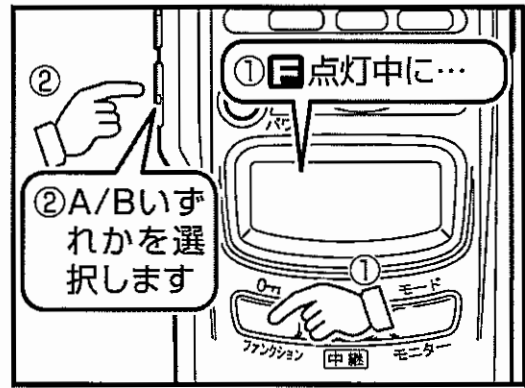
→「rEPEAt」と表示した後、**中継 子機** が点灯します。

[中継]キーを押すごとに、中継通信モード（rEPEAt）と交互通話モード（SimPLE）が切り替わります。

❷チャンネルとグループ番号を合わせる

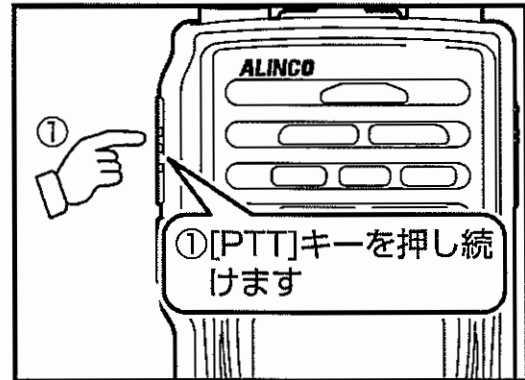
①ダイヤルをまわして中継器とチャンネルを合わせます。
②中継器にグループ番号が設定されている場合、P.24を参照してグループ番号を合わせます。

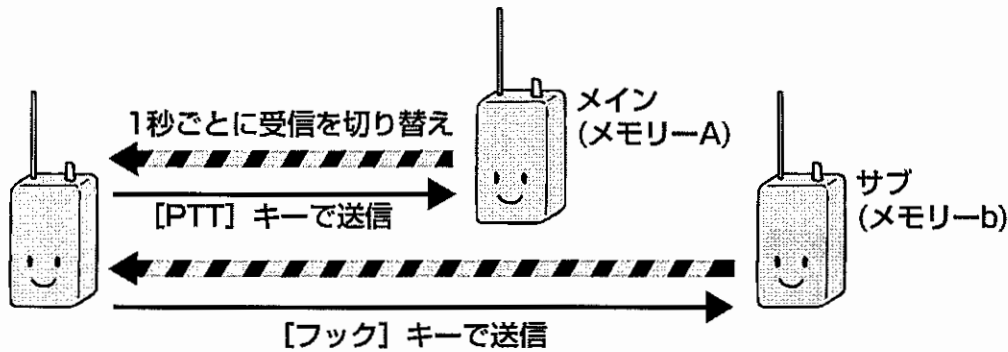
❸周波数帯を設定する

①[ファンクション]キーを押します。
→Fが点灯します。
②F点灯中に[A/B]キーを押し、A/Bいずれかを選択します。

お使いになる中継器の設定をご確認ください。
周波数帯は中継器と逆に設定します。中継器がAなら子機をB、中継器がBなら子機をAとします。

❹送信する

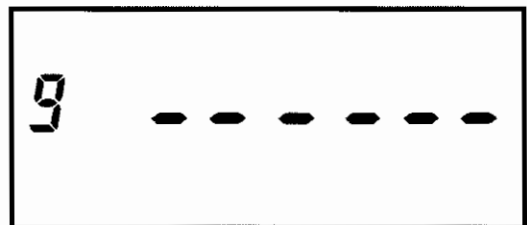
①[PTT]キーを押し続けます。
→約1秒後に「ピピッ」という音が聞こえます。
②[PTT]キーを押したままマイクに向かって話します。

注意 それぞれの無線機が至近距離にあると誤動作することがあります。子機一中継器間、子機一子機間は10メートル以上離してください。

デュアルオペレーションモード

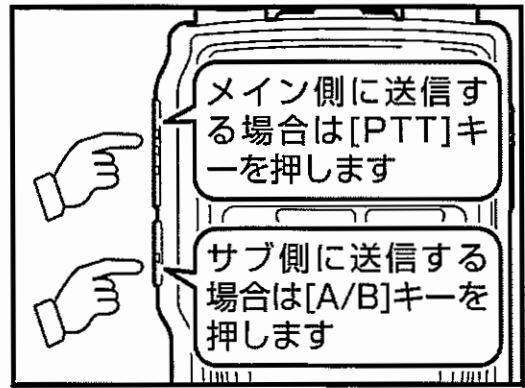
メイン/サブの2つのチャンネルを1秒ごとに交互に受信し、そのどちらも通信することができるモードです。
メイン/サブに設定する内容は、あらかじめメモリー番号A、およびbに登録しておく必要があります。（P.36）

❶メモリー番号Aおよび、bを登録する

P.36を参照して、メインに設定する内容をメモリー番号Aに、サブに設定する内容をメモリー番号bに登録します。

❷通信モードを設定する

P.28を参照して「dUAL」に合わせます。
→登録済みのメモリー番号Aをメインに、bをサブとして1秒ごとに交互に受信待ち受けを開始します。信号を受信すると交互待ち受けが止まります。

❸送信/受信する

●送信する

メイン側に送信する場合は[PTT]キーを、サブ側に送信する場合は[A/B]キーを押します。
→送受信が終了し5秒経過すると1秒ごとの交互待ち受けを再開します。

●受信する

→メイン側を受信すると「mAin」と表示され、「ピッ」音が鳴ります。また、サブ側を受信すると「SUb」と表示され、「ピピッ」音が鳴ります。

オプションのスピーカーマイクやイヤホンで送信する場合は、外部PTTキー一度押しでメイン側、二度押しでサブ側を送信できます。

・・・・・通信モード別設定機能一覧・・・・・・

各モードで使用できる機能の一覧です。モードによっては自動的に設定される機能もありますので、ご注意ください。それぞれの機能の設定方法は、該当するページを参照してください。

モード名	チャンネル	ディスプレイ表示	グループトーク (P.38)	連続送信 (P.48)	ベル (P.52)	秘話機能 (P.46)	コンパンダー機能 (P.45)
交互通話（単信）モード	L01～L09 b01～b11	－	○	※	○	○	○
中継通信（半複信）モード	L10～18 b12～29	中継/子機	○	△	○	○	○
デュアルオペレーションモード	▲	▲	▲	△	×	▲	▲

○：設定できます
△：チャンネルがb12～b29のときに設定できます
×：設定できません
▲：メモリー登録したモードによって異なります
※：設定できませんが、1mW送信は可能です

3 便利な機能

本機を使用する際に便利な機能を紹介します。

メモリーモード

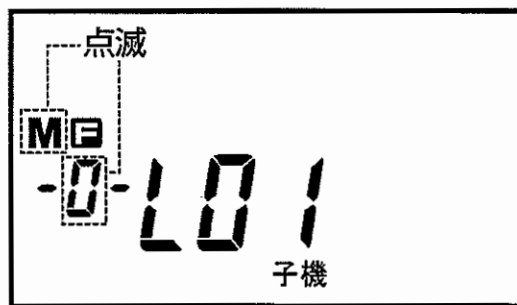
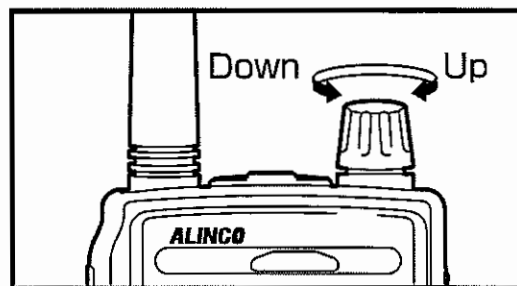
あらかじめ登録しておいたチャンネルを呼び出して運用するモードです。登録できる数は、0～9、A、bの12個です。
A、bに登録した内容はデュアルオペレーションモードでも使用します。

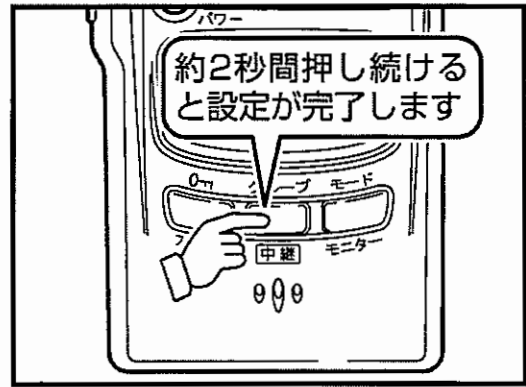
3

■メモリー登録

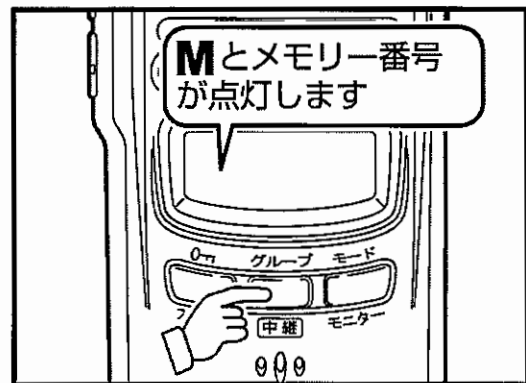
❶登録したい状態（モード、チャンネル、グループトークの有無など）に設定する

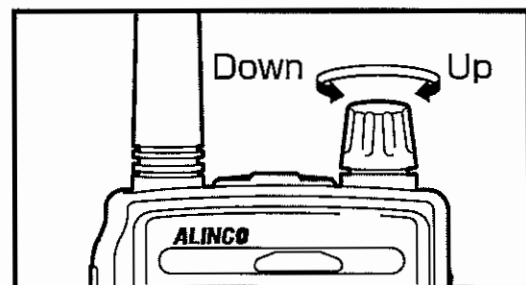
❷[ファンクション]キーを押す

→**M**とメモリー番号が点滅します。

❸ダイヤルを回し登録したいメモリー番号（0～9、A、b）を選択する

❹[中継]キーを約２秒押す

→「writE」と表示され、メモリーに設定した内容が登録されます。

■メモリー呼び出し

❶[中継]キーを約２秒押す

→**M**とメモリー番号が点灯し、メモリーモードに切り替わります。

❷ダイヤルを回し使用するメモリー番号を選択する

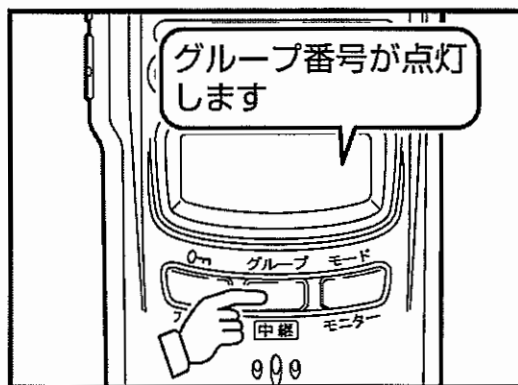
通常の通信モードへ戻すには、再度[中継]キーを約２秒押します。

メモ
・メモリーモード時に登録された通信モードを確認するには、[中継]キーを押します。また、セットモードのメモリー表示機能（P.50）でメモリー番号と通信モードのどちらを優先して表示させるかを選択することができます。
・一度登録されたメモリー内容を消去するには、完全リセット（P.42）操作を行ってください。メモリー内容の変更は上書きすることで可能です。

グループトーク

同じグループの人とだけ通信したいときはグループトーク機能を使用します。

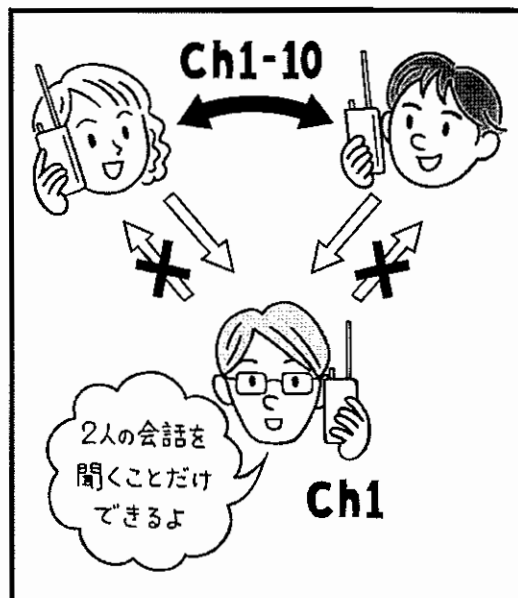
❶グループトークモードにする

①[ファンクション]キーを押します。
→Fが点灯します。
②F点灯中に[グループ]キーを押します。
→グループ番号が点灯します。

3

❷グループ番号を合わせる

ダイヤルを2回押し、グループ番号が点滅中にダイヤルを回します。
グループ番号を合わせるにはP.24を参照してください。

❸送信する

[PTT]キーを押しながらマイクに向かって話します。
→同じチャンネル、同じグループ番号の相手とだけ通話できます。
ただし、グループトーク機能のない同じチャンネルのトランシーバーには話し声が聞こえます。

グループトークはトーンスケルチと呼ばれることもあります。この機能は秘話装置ではありません。

スキャン

自動的に受信チャンネルを切り替えて、信号が出ているところを探し出す機能です。スキャン停止後、信号がなくなれば次のチャンネルへ移ります。

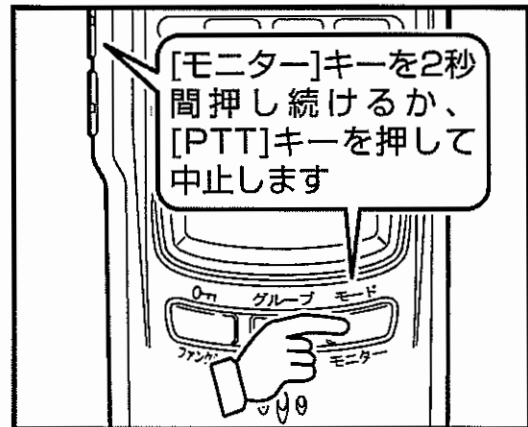
注意 本機能は交互通話モード、中継通信モードでのみ使用できます。

❶スキャンを開始する

[モニター]キーを約2秒押します。
→スキャンが始まります。信号を受信したチャンネルで止まります。信号がなくなると、またスキャンが始まります。

❷スキャンを中止する

[モニター]キーを約2秒押すか、[PTT]キーを押します。

3

・・・・・・キーロック（2タイプ）・・・・・・

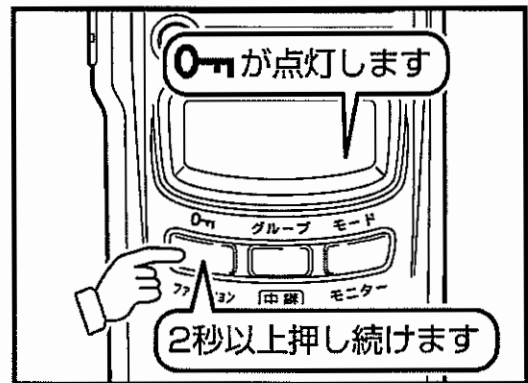
キーロックしておくと、誤操作などによる設定変更を防止できます。

・キーロック中でも、送信、モニター操作、音量調整は操作可能です。
・セットモードのキーロック設定（P.50）でキーの押し時間を変更することができます。

3

■簡易キーロック

●キーロックする

[O┳┓]キーを約2秒押します。
→O┳┓が点灯します。

●キーロックを解除する

キーロック中に[O┳┓]キーを約2秒押します。
→O┳┓が消灯しキーロックが解除されます。

■キーロック

●キーロックする

[モニター]キーと[ダイヤル]を同時に約2秒押します。
→O┳┓が点灯します。

●キーロックを解除する

キーロック中に[モニター]キーと[ダイヤル]を同時に約2秒押します。

注意 キーロック解除は、キーロックをかけた操作と同じ操作を行わないと解除できません。

バッテリー警告機能

電池の残量が少なくなると ▭ が点灯します。
電池の交換時期が近づいています。新しい電池と交換してください。

・電源OFFの状態で充電すると「CHArGE」と表示され、▭が点滅します。
・オプションのニッケル水素充電池（EBP-57N）をご使用の場合、セットモードでNi-MH電池充電機能をONに設定してください。充電機能をONにすることにより、本機がニッケル水素充電池を使用していると判断し、バッテリー警告マークを交換時期に正しく表示します。

本機能には誤差があるため、目安程度とお考えください。

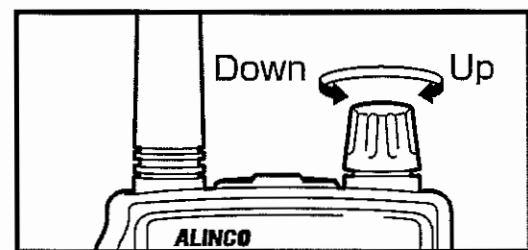
緊急通報機能

本機を簡易的な緊急通報装置として使用する機能です。普段はトランシーバーとして使用し、万一の際には相手機にアラーム音で知らせます。交互通話モードのみで有効です。

❶交互通話モードに設定する

P.28を参照して、本機を交互通話モードに設定します。

❷チャンネルを合わせる

ダイヤルを回してチャンネルを合わせます。

❸ダイヤルを３秒以上押す

→緊急通報を10秒間送信します。相手機は緊急信号を受信し、アラーム音が鳴ります。

リセット

リセットには次の2つの方法があります。

簡易リセット：設定状態などがわからなくなったときに初期化します。通常はこの簡易リセットを行ってください。

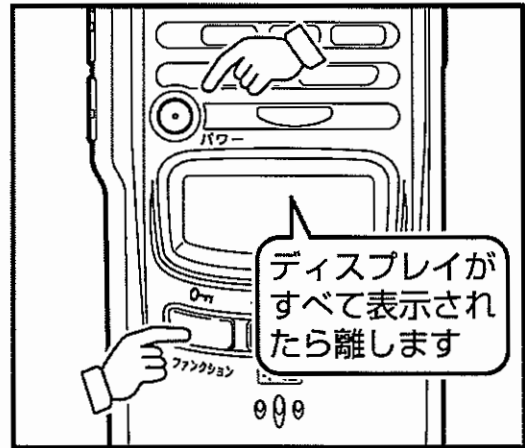
完全リセット：工場出荷状態に戻ります。メモリーの内容なども削除され、消えたデータは復旧できません。

3

■簡易リセット

[ファンクション]キーを押しながら電源を入れます。

→ディスプレイ全点灯中に[ファンクション]キーを離します。

簡易リセットでは登録済みメモリー内容、一部の設定済み内容は保存されます。(P.43)

■完全リセット

[ファンクション]キーとダイヤルを押しながら電源を入れます。

→ディスプレイ全点灯中に[ファンクション]キーとダイヤルを離します。

注意 **完全リセットでは登録済みメモリー内容は消去され、すべての設定済み内容も工場出荷時の設定に戻ります。**

セットモード

各種機能をより使いやすくするために、本機をカスタマイズする機能です。

セットモード一覧

各種機能をより使いやすくするために、DJ-P24をカスタマイズすることができます。

	カスタマイズ項目	参照ページ	初期値	簡易リセット時保存
1	コンパンダー機能	P.45	OFF	
2	秘話機能	P.46	OFF	
3	CH/VOLリバース機能	P.47	CH優先	○
4	連続送信（ローパワー）設定	P.48	HI	○
5	ディスプレイ変更機能	P.49	MODE	○
6	スケルチレベル設定	P.49	3	○
7	キーロック設定	P.50	2秒	○
8	メモリー表示機能	P.50	NUMBER	○
9	ビープ音量設定	P.51	3	
10	操作音機能	P.51	ON	
11	ベル機能	P.52	OFF	
12	エンドピー機能	P.52	ON	
13	自動接続手順変更機能	P.53	ON2	
14	バッテリーセーブ機能	P.53	ON	
15	オートパワーオフ機能	P.54	OFF	
16	ランプ常灯機能	P.54	5秒	
17	Ni-MH電池充電機能	P.55	OFF	
18	電池（電圧）参照機能	P.55	-	
19	PTTホールド機能	P.56	OFF	
20	PTTオフ機能	P.56	ON	
21	LCD消灯機能	P.57	ON	
22	外部音量変更機能	P.57	H	

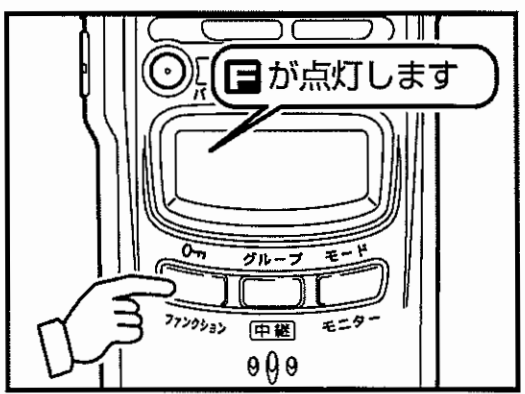
P.45からP.57にセットモードの各項目の設定方法を記載しています。
なお、掲載しているディスプレイ表示は、工場出荷（初期）状態のものです。

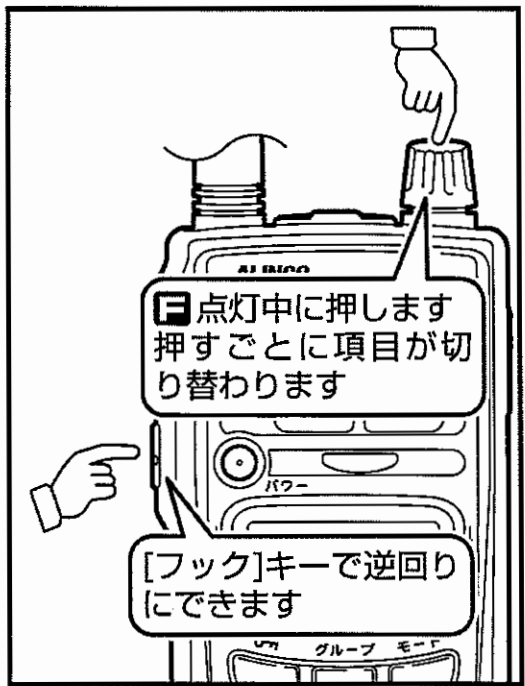
・・・・・・・・・・ 各項目の設定方法 ・・・・・・・・・・

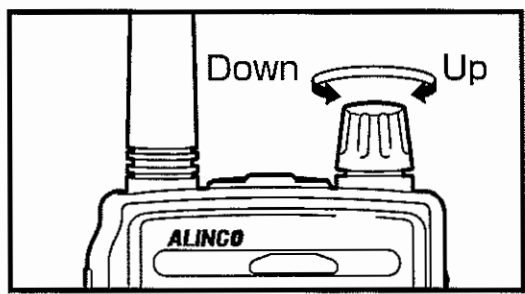
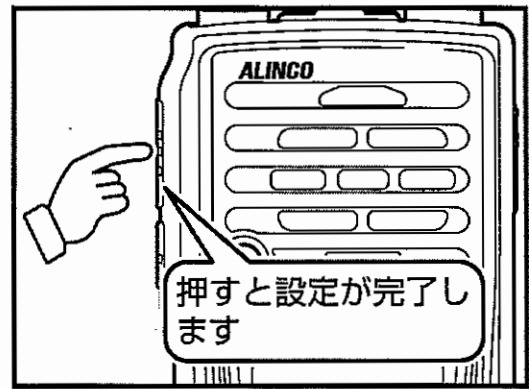
セットモードで設定する各カスタマイズ項目の基本的な設定方法は次のとおりです。各項目の詳細は、該当するページを参照してください。

❶セットモードにする

[ファンクション]キーを押します。
→Fが点灯します。

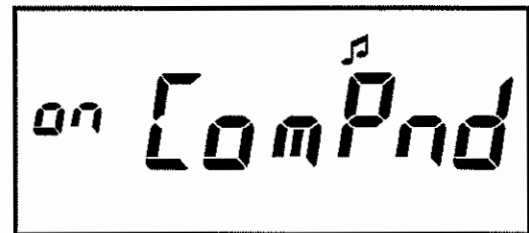
4

❷ F 点灯中にダイヤルを押す

→セットモードの項目が表示されます。ダイヤルを押すごとに項目が切り替わります。[フック]キーを押すと前項目に戻ります。

❸ダイヤルを回して設定値を変更する

または、ダイヤルを回してON/OFFを選択します。

❹[PTT]キーを押して設定を完了する

コンパンダー機能

コンパンダー機能を設定すると、音声通話の明瞭度を上げることができます。初期状態では「ON」に設定されています。

❶コンパンダーモードにする

①セットモードにして(P.44)、「ComPnd」を選択します。
②ダイヤルを回しON/OFFを設定します。
→コンパンダー機能設定時には、「♬」が点灯します。

注意 コンパンダー機能のない無線機とも通話はできますが、音声が聞き取りにくいことがあります。その場合にはコンパンダー機能をOFFに設定してください。

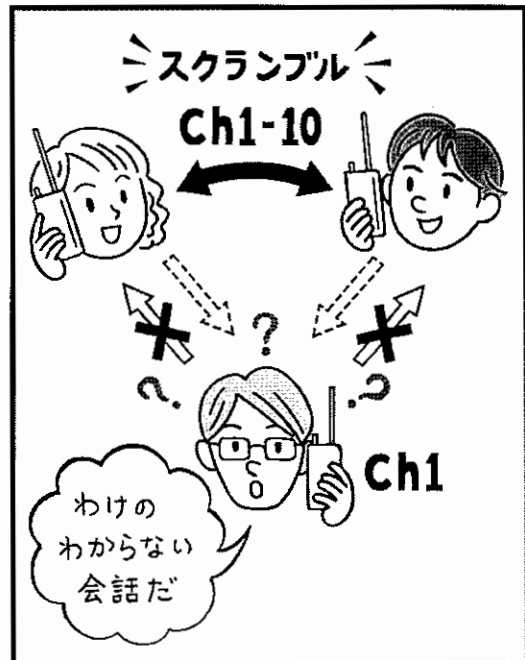
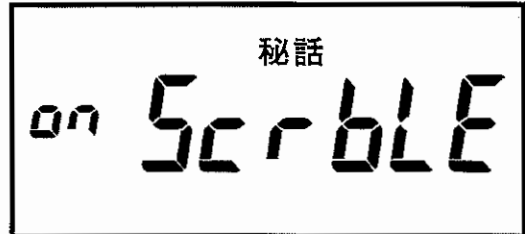
4

秘話機能（スクランブルトーク）

スクランブルトークにすると、他の人には会話の内容が理解できなくなります。秘話機能を搭載した弊社製トランシーバー間で通話することができます。

❶秘話モードにする

①セットモードにして（P.44）、「ScrbLE」を選択します。
②ダイヤルを回しON/OFFを設定します。
→秘話機能設定時には、「秘話」が点灯します。
同じチャンネルで秘話機能を設定している相手とだけ通話できます。
秘話機能のないトランシーバーには話し声は聞こえますが内容はわかりません。

4

CH/VOLリバース機能

ダイヤルを回したときに、チャンネル変更/音量調整のどちらを優先的に操作できるかを選択できます。初期状態ではチャンネル優先に設定されています。

❶CH/VOLリバースの設定をする

セットモードにして(P.44)
「CH-voL」を選択します。

CH-voL

❷ダイヤルを回して「CH-voL」または「voL-CH」を選択する

→「voL-CH」を選択すると音量調整が優先されます。
ダイヤルを回し音量調整します。
ダイヤルを押してから回すとチャンネル変更できます。

連続送信（ローパワー）設定

中継通信時のビジネスチャンネル（b12～b29）設定時、送信出力を10mWから1mWに抑えることにより、3分間の通話制限が解除され連続送信が可能になります。初期状態では送信出力は10mW（「Hi」）に設定されています。

❶連続送信（ローパワー）の設定をする

セットモードにして（P.44）「Pow-Hi」を選択します。

❷ダイヤルを回しローパワー（「Po.w-Lo」）に設定する

→ローパワーに設定すると、チャンネル表示部に「.（ドット）」が点灯します。

注意 交互通話（単信）モードでは、ローパワーに設定する（1mWにする）ことができますが、連続送信はできません。

ディスプレイ変更機能

ディスプレイのモード番号表示部を、S/RFメーター、または送信制限時間表示として使用することができます。また各チャンネルを周波数表示させることができます。なお、連続送信可能時間は、180秒からカウントダウン表示します。初期状態ではモード表示に設定されています。

❶ディスプレイ変更の設定をする

セットモードにして (P.44)「modE」を選択します。

modE

❷ダイヤルを回しディスプレイ方法を選択する

以下からディスプレイ表示方法を選択します。

modE ：モード表示
SmEtEr ：S/RFメーター表示
Cntdn ：カウントダウン表示
FrEq ：周波数表示

4

スケルチレベル設定機能

スケルチとは受信時に信号がないときの「ザー」という雑音を消す機能です。初期状態では「3」に設定されています。設定値が大きいほど、強い信号でスケルチが開くようになります。

❶スケルチレベルの設定をする

セットモードにして (P.44)「SqL 3」を選択します。

SqL - 3

❷ダイヤルを回しレベルを調整する

レベルは0～5の間で調整できます。

キーロック設定

キーロックするときのキーを押し続ける時間を設定できます。時間を長くすることにより、誤操作による不意なキーロック解除を防止できます。初期状態では「2」秒に設定されています。

❶キーロックの設定をする

セットモードにして（P.44）「LoC 2」を選択します。

LoC 2

❷ダイヤルを回し時間を選択する

1～3秒の間で選択できます。

4

メモリー表示機能

メモリーチャンネル運用時の表示方法を選択する機能です。初期状態ではメモリーチャンネル番号表示に設定されています。

❶メモリー表示の設定をする

セットモードにして（P.44）「numbEr」を選択します。

numbEr

❷ダイヤルを回し表示方法を選択する

以下から表示方法を選択します。

numbEr　：メモリーチャンネル番号を表示します
modE　：通話モード番号を表示します
no-modE　：メモリーチャンネル番号とモードを同時に表示します

ビープ音量設定

本機から鳴るビープ音（操作音）の音量を設定します。初期状態では「3」に設定されています。

❶ビープ音量の設定をする

セットモードにして（P.44）「bEEP 3」を選択します。

❷ダイヤルを回しビープ音量を設定する

ビープ音量は0～5の間で選択できます。「0」に設定するとすべてのビープ音が鳴らなくなります。

操作音機能

キー操作音のON/OFFを設定します。初期状態ではONに設定されています。

❶操作音の設定をする

セットモードにして（P.44）「on Sound」を選択します。

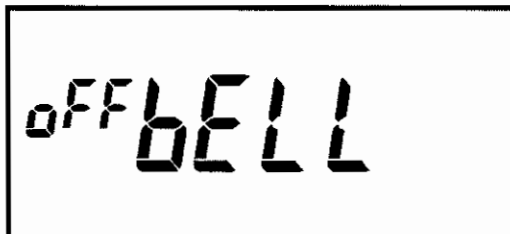
❷ダイヤルを回しON/OFFを設定する

ベル機能

呼び出されたことを表示とベル音でお知らせします。初期状態ではOFFに設定されています。

❶ベルの設定をする

セットモードにして（P.44）「oFF bELL」を選択します。

oFF bELL

❷ダイヤルを回しON/OFFを設定する

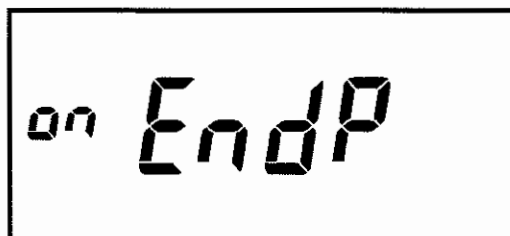
→ベル機能設定時には、🔔が点灯します。

メモ　一定時間（10秒、または20秒間）通話が途切れたあとに受信したとき、ベルが作動します。

エンドピー機能

[PTT]キーを離したときの「ピッ」音のON/OFFを設定します。初期状態ではONに設定されています。

❶エンドピーの設定をする

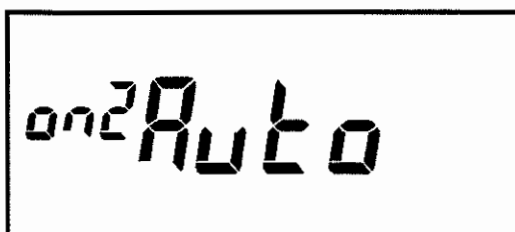
セットモードにして（P.44）「on EndP」を選択します。

❷ダイヤルを回しON/OFFを設定する

自動接続手順変更機能

中継動作自動接続手順（AutoKerchunk）を変更する機能です。接続タイミングの異なる中継器へのアクセスに活用できます。初期状態ではON2に設定されています。

❶ 自動接続手順変更の設定をする

on2 Auto

セットモードにして（P.44）「on2 Auto」を選択します。

❷ ダイヤルを回し設定を選択する

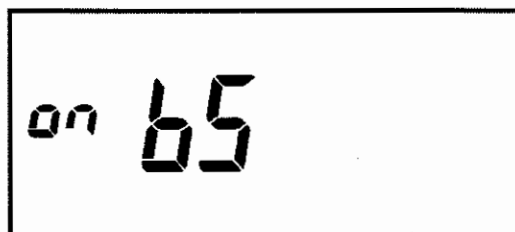
OFF、ON1、ON2から選択します。

OFF ： 自動接続手順解除
ON1 ： DJ-R20D、DJ-R100Dを中継器とするとき
ON2 ： DJ-P10R、DJ-P11R、DJ-P101R、DJ-P111Rを中継器とするとき

バッテリーセーブ機能

待ち受け状態が5秒以上続くと、内部電源を定期的にON/OFFさせて電池の消費を抑える機能です。初期状態ではONに設定されています。

❶ バッテリーセーブの設定をする

セットモードにして（P.44）「on bS」を選択します。

❷ ダイヤルを回しON/OFFを設定する

→バッテリーセーブ機能をOFFに設定すると、チャンネル表示部に「.（ドット）」が点灯します。

オートパワーオフ機能

電源スイッチの切り忘れを防ぐ機能です。無操作状態が設定時間続くと、ビープ音が鳴り自動的に電源が切れます。初期状態ではOFFに設定されています。

❶オートパワーオフの設定をする

セットモードにして（P.44）「oFF APo」を選択します。

oFF APo

❷ダイヤルを回し時間を選択する

OFF、30分、60分、90分、120分から選択します。

ランプ常灯機能

ディスプレイ照明を常時点灯させる機能です。初期状態では「5」秒に設定されており、キー操作をすると5秒間照明が点灯するように設定されています。

注意 ディスプレイ照明を常時点灯させると電池の消耗が早くなります。

❶ランプ常灯の設定をする

セットモードにして（P.44）「5 LAmP」を選択します。

5 LAmP

❷ダイヤルを回し点灯時間を設定する

OFF、5秒、ONから選択します。

Ni-MH電池充電機能

オプションのニッケル水素充電池（EBP-57N）にトリクル充電する機能です。初期状態ではOFFに設定されています。

メモ
・オプションのニッケル水素充電池（EBP-57N）をご使用の場合、セットモードでNi-MH電池充電機能をONにしてください。充電機能をONにすることにより、本機がニッケル水素充電池を使用していると判断し、バッテリー警告マークを交換時期に正しく表示します。
・本機能は微小電流による充電であるため、補充電程度とお考えください。充電時間の目安は次の通りです。
EBP-57N（1800mAh）：約15時間

注意 単三乾電池（マンガン/アルカリなど）装着時には絶対に充電しないでください。液漏れを起こし、事故や故障の原因となります。また、市販の単三型充電池は機構的、電気的に合わないものがあるため、使用しないでください。

❶Ni-MH電池充電の設定をする

セットモードにして（P.44）「oFF CHArGE」を選択します。

❷ダイヤルを回しON/OFFを設定する

4

電池（電圧）参照機能

電池のタイプと電圧を参照する機能です。「t3」は単三型電池、「Li」はリチウムイオンバッテリーパックを示します。

メモ 表示には誤差を含みますので、目安程度とお考えください。テスターとしては使用できません。

❶ 電池（電圧）を参照する

t3 3.00

セットモードにして（P.44）電池（電圧）表示を選択します。
→電池のタイプと電圧が表示されます。外部電源使用時は、「FULL」と表示されます。
イラスト中の電圧表示は一例です。

PTTホールド機能

[PTT]キーを一度押すと送信を継続する機能です。もう一度押すと受信状態になります。この設定を行うことで、[PTT]キーを押し続ける必要がなくなります。初期状態ではOFFに設定されています。

❶PTTホールドの設定をする

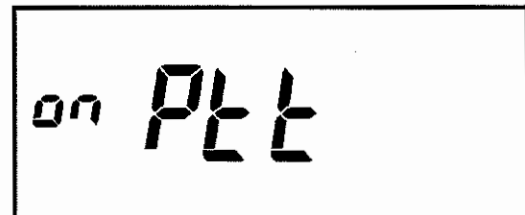
セットモードにして（P.44）「oFF PttHLd」を選択します。

❷ダイヤルを回しON/OFFを設定する

PTTオフ機能

本機を受信専用で使用する場合に、送信を禁止する機能です。[PTT]キーを押しても送信できません。初期状態ではONに設定されています。

❶PTTオフの設定をする

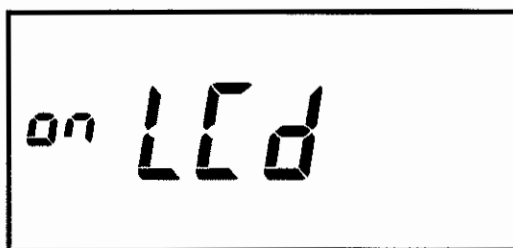
セットモードにして（P.44）「on Ptt」を選択します。

❷ダイヤルを回しON/OFFを設定する

OFFを設定すると送信が禁止されます。

LCD消灯機能

送受信中にディスプレイ表示を消灯させる機能です。送受信音に雑音が混じる場合など、本機能により軽減することがあります。初期状態ではONに設定されており、送受信中でもディスプレイ表示は消えません。

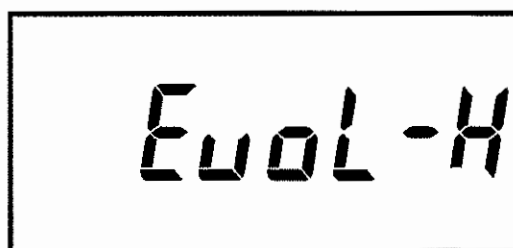
❶LCD消灯の設定をする

セットモードにして（P.44）「on LCd」を選択します。

❷ダイヤルを回しON/OFFを設定する

外部音量変更機能

イヤホンを使用するとき、音が大きい場合には音量を全体的に下げることができます。

❶外部音量の設定をする

セットモードにして（P.44）「EvoL-H」を選択します。

❷ダイヤルを回し「EvoL-L」に設定する

→「EvoL-L」を選択すると、全体的に音量が下がります。

注意 イヤホンを使用した状態で外部音量の変更はしないでください。大きな音で耳を痛めるおそれがあります。

リモコンモード

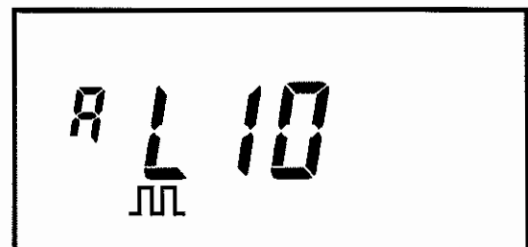
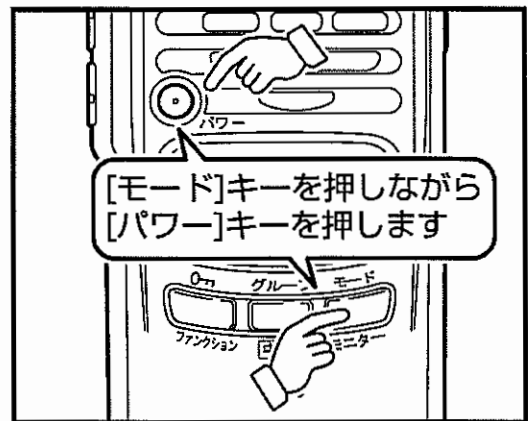
本機をリモコンとして、中継器を遠隔操作する機能です。

本機から中継器のチャンネルなどを遠隔操作することができます。
本機能は、中継器DJ-P101R、DJ-P111R に対応しています。

モード切り替え

リモコンモードに切り替えます。

❶ リモコンモードにする

[モード]キーを押しながら電源を入れます。
→「rEmCon」と表示したあと「ЛЛ」が点滅します。

項目の設定

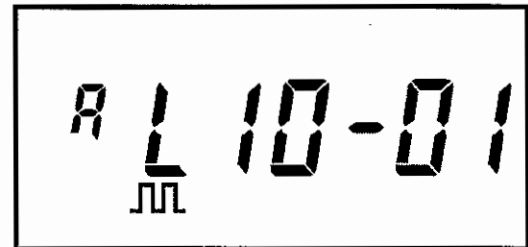
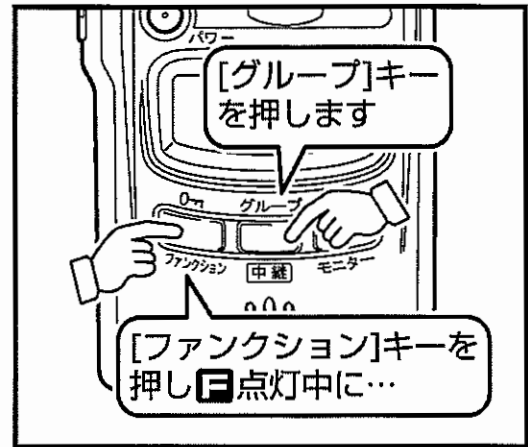
中継器へ転送する項目を設定します。

チャンネル設定

❶ ダイヤルを回しチャンネルを選択する

グループトーク設定

❶ グループトークを設定する

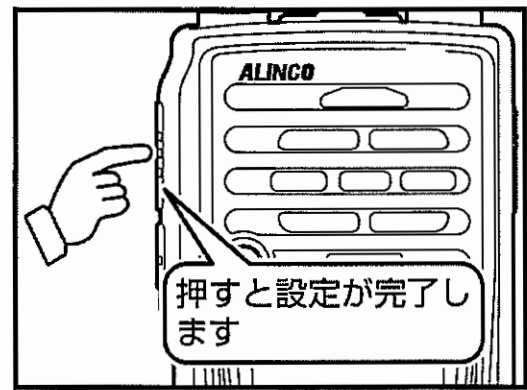
[ファンクション]キーを押し F 点灯中に[グループ]キーを押します。
→グループ番号が点灯します。

❷ グループ番号を合わせる

ダイヤルを押します。
→グループ番号が点滅中にダイヤルを回します。

グループ番号は「01 ～ 50」までと「tH」が選択できます。

メモ　中継器にトーンスルー機能を設定する場合はグループ番号「tH」を選択します。
トーンスルー機能とは、同じチャンネルに設定している複数のグループが、別々のグループ番号を使用し1 台の中継器を共用することができる機能です。
本機能で使用できるグループ番号は、「32～38 番」「48～50 番」の10 通りです。(中継器の取扱説明書をご覧ください)

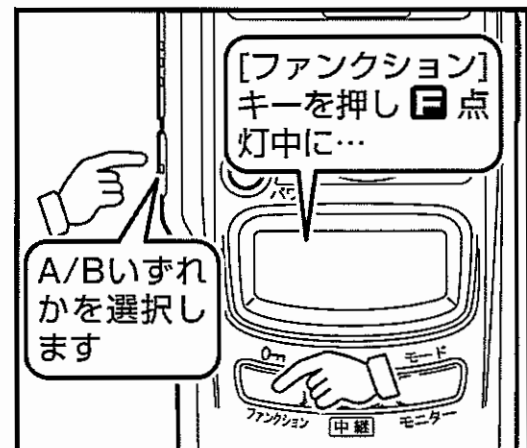
メモ　チャンネルやグループ番号は中継器と子機で同じに合わせます。

❸[PTT]キーを押して設定を完了する

周波数帯の設定

中継器が送受信する周波数帯を設定します。
子機が「A」なら、中継器には自動的に「B」が設定されます。

❶AまたはBを選択する

[ファンクション]キーを押し🄵点灯中に[A/B]キーを押します。
A/Bいずれかを選択します。(通常はAのままでご使用ください)

5

その他の設定

必要に応じて、その他の機能を設定します。
セットモードで、自動接続手順、ハングアップタイマー、アラーム機能の設定ができます。(これらの機能については、中継器の取扱説明書をご参照ください)

❶ セットモードにする

[ファンクション]キーを押し🅵点灯中にダイヤルを押します。
→「on Auto」が点灯します。

ダイヤルを押すごとに項目が切り替わります。
「on Auto」→「0 HunGuP」→「oFF ALm」

●「on Auto」自動接続手順の設定

初期状態はON に設定されています。中継器の本機能をOFF にする場合、子機のAUTO 設定もOFF または ON2 としてください。

●「0 HunGuP」ハングアップタイマーの設定

初期状態は0（OFF）に設定されています。
0 秒／0.5 秒／1 秒／2 秒から選択します。
設定した秒数だけ中継動作を継続します。

●「oFF ALm」アラーム機能の設定

初期状態はOFF に設定されています。
ON にすると中継動作の終了を音でお知らせします。

❷ダイヤルを回してON/OFFを選択する

または、設定値を変更します。

❸[PTT]キーを押し設定を完了する

5

設定の転送

本機をリモコンとして、各設定を中継器へ転送します。

❶ リモコンモードへの切り替え、設定を完了させる

「モード切り替え方法」(P.58)、「項目の設定方法」(P.58) に従って本機をリモコンに切り替え、設定を完了させせます。

❷ 設定項目を転送する

[PTT]キーを約2秒押します。
→「ピピ」と鳴って中継器へ転送が開始されます。
→「SEnd」と表示されます。

❸ 中継器の電源を入れる

速やかに中継器へACアダプターを接続します。(中継器の取扱説明書をご参照ください)
→数秒後、転送が完了すると「○○○○○○」が表示され、本機から「プルル」音が鳴ります。

転送完了後、中継器は自動的に再起動します。
再起動後20秒間は初期化がおこなわれ、その後、中継器としてお使いいただけます。

❹本機の電源を入れ直す

中継通信モードに戻ります。
子機を2台用意し、中継器が動作することを確認してください。

6 付　録

本機の補足事項を記載しています。

・・・・各チャンネルの送受信周波数・・・・

■レジャーチャンネル

L01	422.2000MHz
L02	422.2125MHz
L03	422.2250MHz
L04	422.2375MHz
L05	422.2500MHz
L06	422.2625MHz
L07	422.2750MHz
L08	422.2875MHz
L09	422.3000MHz

	B	A
L10	421.8125MHz	440.2625MHz
L11	421.8250MHz	440.2750MHz
L12	421.8375MHz	440.2875MHz
L13	421.8500MHz	440.3000MHz
L14	421.8625MHz	440.3125MHz
L15	421.8750MHz	440.3250MHz
L16	421.8875MHz	440.3375MHz
L17	421.9000MHz	440.3500MHz
L18	421.9125MHz	440.3625MHz

複信連結中継通信モードでの周波数帯について…
A選択時：
　440MHz側を送信します。
B選択時：
　421MHz側を送信します。

■ビジネスチャンネル

b01	422.0500MHz
b02	422.0625MHz
b03	422.0750MHz
b04	422.0875MHz
b05	422.1000MHz
b06	422.1125MHz
b07	422.1250MHz
b08	422.1375MHz
b09	422.1500MHz
b10	422.1625MHz
b11	422.1750MHz

	B	A
b12	421.5750MHz	440.0250MHz
b13	421.5875MHz	440.0375MHz
b14	421.6000MHz	440.0500MHz
b15	421.6125MHz	440.0625MHz
b16	421.6250MHz	440.0750MHz
b17	421.6375MHz	440.0875MHz
b18	421.6500MHz	440.1000MHz
b19	421.6625MHz	440.1125MHz
b20	421.6750MHz	440.1250MHz
b21	421.6875MHz	440.1375MHz
b22	421.7000MHz	440.1500MHz
b23	421.7125MHz	440.1625MHz
b24	421.7250MHz	440.1750MHz
b25	421.7375MHz	440.1875MHz
b26	421.7500MHz	440.2000MHz
b27	421.7625MHz	440.2125MHz
b28	421.7750MHz	440.2250MHz
b29	421.7875MHz	440.2375MHz

・・・トーン周波数一覧（グループ番号）・・・

番号	周波数	番号	周波数	番号	周波数	番号	周波数
01	67.0Hz	16	114.8Hz	31	192.8Hz	46	196.6Hz
02	71.9Hz	17	118.8Hz	32	203.5Hz	47	199.5Hz
03	74.4Hz	18	123.0Hz	33	210.7Hz	48	206.5Hz
04	77.0Hz	19	127.3Hz	34	218.1Hz	49	229.1Hz
05	79.7Hz	20	131.8Hz	35	225.7Hz	50	254.1Hz
06	82.5Hz	21	136.5Hz	36	233.6Hz		
07	85.4Hz	22	141.3Hz	37	241.8Hz		
08	88.5Hz	23	146.2Hz	38	250.3Hz		
09	91.5Hz	24	151.4Hz	39	69.3Hz		
10	94.8Hz	25	156.7Hz	40	159.8Hz		
11	97.4Hz	26	162.2Hz	41	165.5Hz		
12	100.0Hz	27	167.9Hz	42	171.3Hz		
13	103.5Hz	28	173.8Hz	43	177.3Hz		
14	107.2Hz	29	179.9Hz	44	183.5Hz		
15	110.9Hz	30	186.2Hz	45	189.9Hz		

オプション一覧

EBP-57N	ニッケル水素充電池
EBP-60	リチウムイオンバッテリーパック
EDC-131A	充電スタンド/ACアダプターセット
EDC-131	充電スタンド単体
EDC-122	ACアダプター単体
EDC-155R	連結充電スタンド
EDC-156	連結用ACアダプター
EDC-167A	ツイン急速充電器セット
EDC-167R	ツイン連結充電スタンド
EDC-162	ツイン連結用ACアダプター
EDH-33	シガーDC/DCコンバーター（12V／24V車対応）
EMS-59	スピーカーマイク
EME-12A	VOX付きヘッドセット（ヘッドホンタイプ）
EME-13A	VOX付きヘッドセット（インナータイプ）
EME-15A	VOX付きタイピンマイク
EME-19A	ヘルメット用ヘッドセット
EME-21A	イヤホンマイク（業務仕様）
EME-29A	イヤホンマイク　イヤーフック付（業務仕様）
EME-30A	イヤホンマイク（ブームマイク）
EME-31A	イヤホンマイク（マイクロスピーカー）
EME-34A	イヤホンマイク
EME-39A	咽喉イヤホンマイク
EME-6	イヤホン（ストレートコード）
EME-26	イヤホン（カールコード）
ESC-40	ソフトケース

注意　EMS-59（スピーカーマイク）は、PTTホールド機能を使用できません。

……故障とお考えになる前に……

本機が故障かなと思ったら、まずこちらをお読みください。

症 状	原 因	処 置
電源が入らない。	電池の入れ方が間違っている。（P.13）	電池を正しく入れ直してください。
	電池が消耗している。	新しい電池と交換してください。充電池を充電してください。
ディスプレイ表示が消える。	LCDオン/オフ設定機能がONになっている。（P.57）	LCDオン/オフ設定機能をOFFにしてください。
	電池が消耗している。	新しい電池と交換してください。充電池を充電してください。
音が出ない。受信できない。	音量が低すぎる。	適切な音量に設定してください。
	相手とチャンネルが違う。（P.23）	同じチャンネルに合わせてください。
	相手と距離が離れ過ぎている。（P.10）	通信距離を目安に通信してください。
	グループ番号が違う。（P.24）	グループ番号を合わせてください。
	[PTT]キーが押されている。	[PTT]キーを離してください。
「ザー」という雑音が出る。	スケルチレベルが低すぎる。（P.49）	適切なスケルチレベルに設定してください。
送信できない。	信号を受信している。	信号がなくなってから送信するか、チャンネルを変更してください。
	通信制限時間を超過している。（P.25）	[PTT]キーを離し2秒たってから送信してください。
	PTTオン/オフ設定機能がOFFになっている。（P.56）	セットモードでPTTオン/オフ設定機能をONにしてください。
電池の消耗が早い。	バッテリーセーブ機能がOFFになっている。（P.53）	セットモードでバッテリーセーブ機能をONにしてください。
	ランプオン/オフ設定機能がONになっている。（P.54）	セットモードのランプオン/オフ設定機能でランプをOFFにするか、5秒に設定してください。
Ni-MH電池使用時、電池マークの点灯が早い。	Ni-MH電池充電機能がOFFになっている。（P.55）	セットモードでNi-MH電池充電機能をONにしてください。
キー操作できない。チャンネルが変わらない。	キーロックされている。（P.40）	キーロックを解除してください。
充電しない。	充電端子が汚れている。	本体底面の充電端子、充電器側の充電端子の汚れを乾いた布で拭き取ってください。

処置を施しても異常が続くときはリセット（初期化）してください。症状が回復する場合があります。

電池が消耗していると、まれに誤動作することがあります。新しい電池に交換してください。

6

■製造中止製品に対する保守年限に関して

生産終了製品に関しては、下記の一定期間補修用部品を常備しています。不測の事態により在庫がなくなる場合もあり、修理ができないこともありますのでご了承ください。

補修用部品の保有期間は、生産終了後5年です。

■仕様・定格は予告なく変更する場合があります。
■本書の説明用イラストは、実物とは字体や形状などが異なったり、一部の表示を省略している場合があります。
■本書の内容の一部、または全部を無断転載することは禁止されています。

定格DJ-P24

送受信周波数	レジャーチャンネル	421.8125~421.9125MHz 422.2000~422.3000MHz 440.2625~440.3625MHz（12.5kHzステップ）
	ビジネスチャンネル	421.5750~421.7875MHz 422.0500~422.1750MHz 440.0250~440.2375MHz（12.5kHzステップ）
周波数制御チャンネル	421.8000MHz/440.2500MHz	
電波形式	F3E（FM）/F1D(FSK)	
送信出力	10mW、1mW	
受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン	
受信感度	-14dBμ以下（12dB SINAD）	
中間周波数	1st IF 21.7MHz/2nd IF 450kHz	
音声出力	内部スピーカー200mW以上/外部出力100mW以上	
消費電流	送信時 約75mA（10mW）、約65mA（1mW）	
	受信定格出力時（50mW） 内部 約200mA/外部 約130mA	
	受信待ち受け時 約55mA	
	バッテリーセーブ時（平均） 約20mA	
通信方式	単信方式、半複信方式	
定格電圧	DC2.4V~DC3.7V	
外部電源端子	DC5.0V~DC6.0V EIAJ規格：区分2	
動作温度範囲	-10℃~+50℃	
寸 法	57（W）×98（H）×27.9（D）mm（突起部除く）	
	アンテナ長 Lタイプ 169mm/Sタイプ 36mm	
重 量	Lタイプ 124g/Sタイプ 119g（電池除く）	